

「体育理論」の知識を実生活に生かそうとする生徒を育む学習指導
－知識を獲得させるための教材・発問の工夫を通して－

飯塚市立飯塚第二中学校 福田 隆太郎

I 主題設定の理由

1 教育の動向及び長期派遣研修員共通テーマから

教育基本法が約 60 年ぶりに改正され、新しく教育の目標（第 2 条 1 号）が「幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。」（平成 18 年 12 月 22 日 『教育基本法』）と規定された。また、これに伴う学校教育法の改正を受け、中央教育審議会では、学力の要素を「①基礎的・基本的な知識・技能の習得 ②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等 ③学習意欲であることを明確に示すものである。」（平成 20 年 1 月 17 日 『中央教育審議会 答申』）と定義している。以上のことを踏まえ、保健体育科では「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる。」ことを目標にかかげ、「運動の楽しさや喜びを味わえるような基礎的な運動技能や知識を確実に身につけるとともに、それらを活用して、自らの運動の課題を解決するなどの学習をバランスよく行うことが重要である。」（平成 20 年 9 月 『中学校学習指導要領解説保健体育編』）と記されている。つまり保健体育科においても、生涯にわたって、健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを目指して、知識や技能の定着とそれらを活用する思考力・判断力・表現力等の高まりが求められていると考える。

また、長期派遣研修員の共通テーマを「考えを広げ深める体育科・保健体育科学習指導」とした。このテーマは、体育の分野においては、技能や態度を高めるために、体の動かし方や体を動かすことについての様々な知識を用いたり、行動や行為の意味を認識することで知識を獲得したりすることで、豊かなスポーツライフを送ることの基礎となる資質・能力をバランスよく身に付けることを目指している。

これらの教育の動向及び共通テーマを受け、新学習指導要領で名称が変わり内容が再編された知識に関する領域の「体育理論」に注目した。この「体育理論」では、様々な資質や能力の源である幅広い科学的な知識を習得することが求められている。そこで本研究では、単に「体育理論」の知識を習得するだけに留めることなく、「体育理論」の知識を習得することを核にし、思考したり判断したりすることで、態度の高まりに広げていく。知識を核にして高まった態度は、運動やスポーツの楽しさや喜びを一層味わうことができ、学校生活や家庭生活といった実生活に生かそうとする力となり、さらにはこの実生活に生かそうとする力が基盤となって、生涯にわたって豊かなスポーツライフを送ることにつながるかと考え、本主題を設定した。

2 「体育理論」の教育的価値から

今回の学習指導要領の改訂では、これまでの「体育に関する知識」領域の内容構成が見直され、「体育理論」として名称が変更された。具体的には「基礎的な知識の確実な定着を図るため、発達の段階を踏まえて知識に関する領域の構成を見直し、各領域に共通する内容に精選するとともに、各領域との関連で指導することが効果的な内容については、各領域で取り上げるように整理すること」（平成 20 年 9 月 『中学校学習指導要領解説保健体育編』）とし、各学年の年間カリキュラムに 3 単位時間以上の位置付けがなされた。また、今回の改訂で重視された「体づくり運動」はもとより、改善の基本方針では、「(前略)学習したことを実生活、実社会において生かすことを重視し、学校段階の接続及び発達の段階に応じて指導内容を整理し、明確に示すことで体系化を図る。」（平成 20 年 9 月 『中学

校学習指導要領解説保健体育編』)としている。特に新たな「体育理論」においては、子どもたちが日々接している運動やスポーツの技能としての知識だけでなく、運動やスポーツの多様性や効果と安全、あるいは歴史や文化の知識を習得させることが求められている。これについて品田は「生涯にわたる生活の中で行う運動の意味を問い、生活や運動実践の質的充実を求める考え方が主軸になっている。こうした考え方からみれば、スポーツ生活を自ら築く力を育てる内容を導入することは、生涯スポーツ時代を迎えた今日、自然な流れといえる。」(2008. 6『体育科教育』)と述べている。これらの流れを受けて、運動領域の実践とともに、「体育理論」において知識を習得する学習も合わせて行うことで、運動やスポーツに親しむ資質や能力を養い、保健体育科における目標である「豊かなスポーツライフ」の実現に向けて、運動やスポーツを実生活に生かそうとする生徒の育成が重要であると考え、本主題を設定した。

3 平成 22 年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書及び福岡県の児童生徒体力・運動能力調査報告書の分析から

平成 22 年度に行われた全国体力・運動能力、運動習慣等調査の報告書において、1 日の運動・スポーツ実施時間が少ないほど体力テストの合計点が低いという結果が出ている。また福岡県の中学校 2 年生女子では、1 週間に 60 分未満しか運動しない生徒の割合が、39.6%と全国平均の 31.1%を大きく上回っている実態がある。これらの結果から、運動やスポーツに親しむ機会が少ない生徒にとって、保健体育科の授業は、運動やスポーツに関する関心・意欲を高める上で重要な役割を担っていると言える。

また同報告書では、家の人と運動やスポーツを実施したり、スポーツを観戦したり、話をしたりする頻度が多いほど体力テストの合計点が高いという結果が出ている。この結果は、家庭でも運動やスポーツに関心・意欲をもつことが、体力向上を目指す上で重要な要因であると言える。

そこで「体育理論」の領域を学習することは、「する」「みる」「支える」といった視点から運動やスポーツへの関心・意欲を高めることができ、さらには運動やスポーツにかかわろうとする機会を増やすことにつながり、生涯にわたって豊かなスポーツライフを目指す基盤となると考え、本主題を設定した。

II 主題及び副主題の意味

1 主題「『体育理論』に関する知識を実生活に生かそうとする生徒」とは

知識に関する領域の学習を通して知識を獲得し、獲得した知識を生かして、身近な日常生活の中で運動やスポーツにかかわっていかうとする生徒のことである。
--

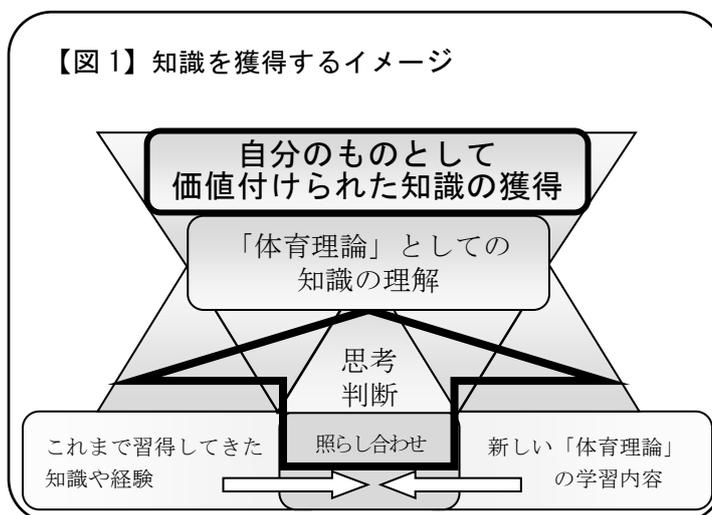
(1) 「知識に関する領域の学習」について

今回の学習指導要領改訂では、指導内容の明確化とともに、発達の段階を踏まえ、小・中・高 12 年間で 4 年一括りとして系統化され指導内容の体系化が図られた。中学校段階は、小学校高学年と中学校 1・2 年生を合わせた中期と中学校 3 年生と高等学校を合わせた後期の時期にあたる。ここでは、中期の 1・2 年生を対象に研究を進めていく。1 年生では、「運動やスポーツの多様性」を大単元とし、運動やスポーツを実際に「する」という視点はもちろん、試合を競技場やテレビで観戦するといった「みる」視点や、ボランティアとして大会の運営や選手の支援を行うなど「支える」という視点で多様なかかわり方があることを踏まえ、運動やスポーツの必要性、楽しさ、学び方について学習する。

また2年生では、「運動やスポーツが心身の発達に与える効果と安全」を大単元とし、1年生で学習した「する」「みる」「支える」の視点を踏まえ、運動やスポーツが心身に及ぼす効果や、社会性の発達に及ぼす効果、安全な運動やスポーツの行い方について学習する。この2つの大単元で習得した知識は、単に理解するだけの知識にとどまらず、学校生活や地域・家庭生活といった実生活に生かそうとする行動の基礎になるものとする。

(2) 「知識を獲得する」について

本研究では、1単位時間の授業において、まず生徒がこれまで習得してきた知識や経験してきたことと、新しい「体育理論」としての学習内容を照らし合わせることで思考・判断する。また他者の意見を取り入れながら議論し、議論したことを参考に、自分の考えを再度見直し、思考・判断していくことで、「体育理論」としての知識を理解する。さらには、理解した「体育理論」としての知識を自分のものとして価値付けていく。自分のものとして価値付けるとは、「体育理論」の学習を通して学んだことを「する」「みる」「支える」の3つの視点を



踏まえ、日常の生活に生かすことができるものはなにかを見出していくことで、より実感した、より納得した知識を習得していくことである。この自分のものとして価値付けられた知識を習得していく過程を、本研究では「知識を獲得する」と定義する。【図1】

(3) 「身近な日常生活の中で運動やスポーツにかかわっていこうとする生徒」について

身近な日常生活とは、学校生活や家庭・地域での生活のことである。学校生活では、保健体育の授業や部活動などで「運動」としてかかわる機会があり、家庭・地域での生活では家の人とスポーツを観戦することをはじめ、住民運動会に参加したり、地域のスポーツ大会にボランティアとして参加したりすることで、「スポーツ」としてかかわる機会がある。その中で「運動やスポーツにかかわっていこうとする生徒」とは、様々な思考・判断をした結果「体育理論」としての知識を理解し、理解した知識をもとに、より実感した、より納得した、自分のものとして価値付けられた知識を学校生活や家庭・地域の生活につなげ、その中で生かそうとする生徒のことである。本研究が実生活に生かそうとする具体的な目指す生徒像を【表1】に挙げる。

資質や能力	目指す生徒の姿
知識	運動やスポーツの多様性、又は運動やスポーツが心身に与える効果と安全について理解し、自分のものとして価値付けられた知識を獲得することができる生徒
思考・判断	これまでの経験や学習してきたことと新しい「体育理論」としての学習内容を照らし合わせたり、他者の意見を取り入れながら議論し、議論したことを参考にし、自分の考えを再考したりすることができる生徒
態度	獲得した知識を、学校生活における授業や部活動等、または家庭や地域の生活の中で生かそうとする生徒

【表1】 目指す生徒像

2 副主題「知識を獲得させるための教材・発問の工夫」とは

段階のねらいに応じて、日常生活の中で見たり聞いたりしたことのある題材を教材化することと、教材を生かし学習指導内容に結び付けていく発問を設定していくことである。

(1) 「段階のねらいに応じて」について

学習内容を定着させながら知識を獲得させるため、1単位時間の授業を「出会う」「深める」「実感する」の3つの段階で構成し、それぞれの段階でのねらいを明確にする。【表2】

段 階	ね ら い
出会う	これから学ぶ学習内容の見通しをもたせたり、これまで習得してきた知識や経験を想起させたりして、授業に対する関心・意欲を高めさせる。
深める	これまで習得してきた知識や経験と、新しい「体育理論」の学習内容を照らし合わせたり、他者の意見を取り入れながら議論させ、議論したことを参考にし、自分の考えを再考させたりし、「体育理論」としての知識を習得させる。
実感する	「体育理論」としての知識を、より実感した、より納得した知識として自分のものとして価値付けさせる。また、獲得した知識を実生活に生かそうとする態度を高めさせる。

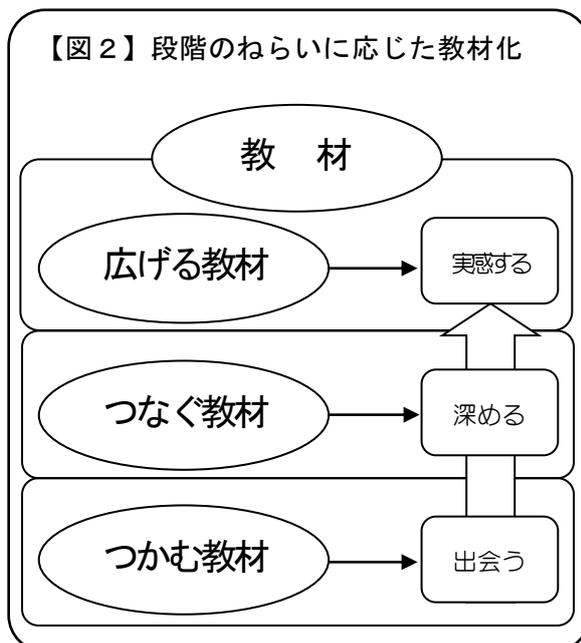
【表2】段階とねらい

以上のように3つの段階を設定し、ねらいを明確化することで、それぞれの段階のねらいの達成に向け、教材と発問を明確にすることができる考える。

(2) 「日常生活の中で見たり聞いたりしたことのある題材を教材化する」について

岡崎は「体育理論の授業では、(中略)学習内容の習得に向けてどんなテーマ(題材)を選ぶのか、それをどんな切り口で学習者に提供するかが大いに問題になる。」(2010.4.10 『新版 体育科教育学

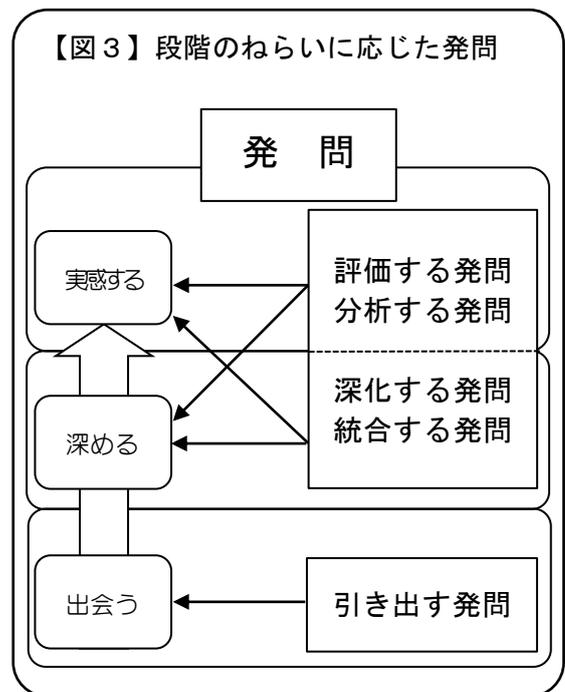
入門』)と述べている。このことは、生徒に単に知識だけを詰め込むのではなく、知識を獲得させるために、ある1つのテーマについて様々な題材を教材化することで、学習に対する意欲を高め、思考を揺さぶり、新しい発見へと導いていくことが重要であるととらえた。そこで本研究において、題材を教材化するとは、生徒に教材について考えさせ、どんな意義があるのか興味深く、そして感動的に伝えることができるよう、身近な情報であるニュースや新聞、DVD、実物の資料物品や模型などを、授業の段階のねらいや学習内容に応じて吟味し、提供の仕方を工夫していくことととらえ、出会う段階では「つかむ」教材、深める段階では「つなぐ」教材、実感する段階では「広げる」教材として設定し、知識を獲得させていく。【図2】



(3) 「教材を生かし、学習指導内容に結び付けていく発問」について

野口は発問について「ある問いを出して、それを解決するとさらに質の高い問いが生まれ、それを解決するとさらに高みにいざなわれる。そんなふうには、扉を開けるたびにその先に次の扉があって、最後の扉を開いたら光がさっと射してきたという問いの組み立てが理想である。」(2011. 1. 10『教師のための発問の作法』)と述べている。また岡崎は「どんなによい題材を選んだとしても、その題材の世界に学習者を引き込むための発問が用意されていなければ授業は成功しない。題材設定と発問づくりの良否が、その後の学習に決定的な影響を及ぼすことになる。(中略)運動学習でも「発問」は大切であるが、体育理論の授業では、題材に対する生徒の問題意識を喚起して思考を深め、探求心を育ていくための重要な鍵となる。そのため、生徒の知的発達段階や関心事を十分に把握しておく必要がある。」(2010. 4. 10 『新版 体育科教育学入門』)と述べている。これらのことから題材(テーマ)を教材化するとともに、学習に対する意欲を高めたり、探求心を深めたり、運動やスポーツについて知識の定着を図ったり、態度を高めるための発問が必要であるととらえた。発問によって、運動やスポーツに対して新しい見方ができたり発見するきっかけとなったりする。新しい見方や発見は、運動に関する領域で生かそうとすることはもちろん、「早く運動をやってみたい」「家でスポーツを観戦したい」「地域のスポーツ大会に参加してみたい」などといった関心や意欲が実生活に生かそうとすることにつながると思う。

また佐藤は「発問は、単元の内容に興味・関心をもたせたり、学習内容に引き込んだりするため、また、生徒の思考を揺さぶり、考えを深める際にもとても重要といえます。過去に学習した(知識)記憶を呼び戻すための発問や、発想を広げたり、様々な情報から課題解決につながる回答を絞り込んだりする発問、意志決定をもたらす発問などが考えられます。」(2011. 8. 20 『楽しい体育理論の授業をつくろう』)と述べている。このことを受け、様々なねらいをもつ発問については、段階のねらいに応じて分類整理し明確にすることで、より効果的に知識を獲得させることができると考えた。そこで本研究では、段階のねらいに応じて「引き出す」、「統合する」、「深化する」、「分析する」、「評価する」という発問を5つに整理し、1時間の授業の中に3～5種類選択して組み込んでいくこととする。【図3】



Ⅲ 研究の目標

「体育理論」の学習活動において、段階のねらいに応じて教材や発問の工夫を行うことで、獲得した知識を実生活に生かそうとする生徒を育てる学習指導の在り方を究明する。

Ⅳ 研究の仮説

「体育理論」の授業において、段階のねらいに応じて教材と発問の工夫を行えば、獲得した知識を実生活に生かそうとする生徒が育つであろう。

1 教材の工夫

獲得した知識を実生活に生かそうとする生徒を育てるため、段階に応じた「つかむ」教材、「つなぐ」教材、「広げる」教材に教材化すること。

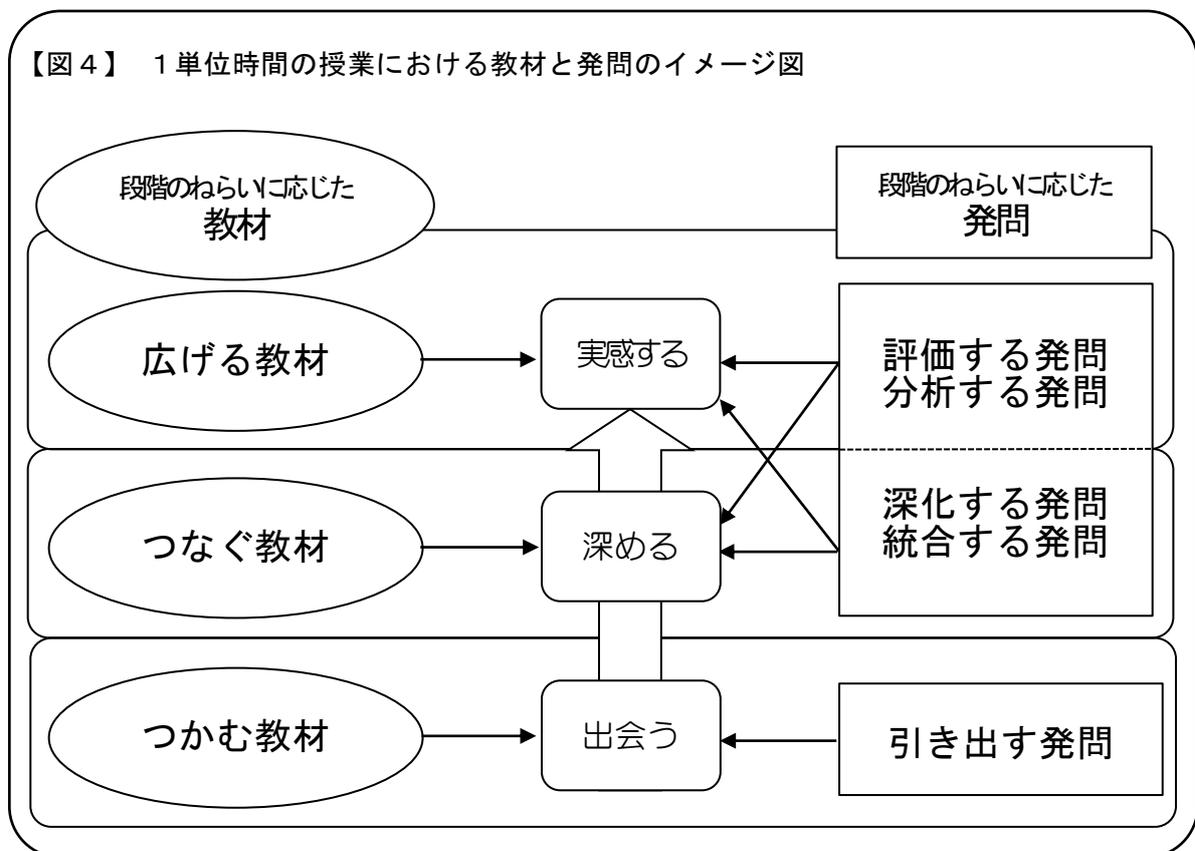
2 発問の工夫

獲得した知識を実生活に生かそうとする生徒を育てるため、段階に応じた「引き出す」、「統合する」、「深化する」、「分析する」、「評価する」の5つに分類し発問を設定すること。

Ⅴ 研究の具体的構想

1 教材と発問の工夫

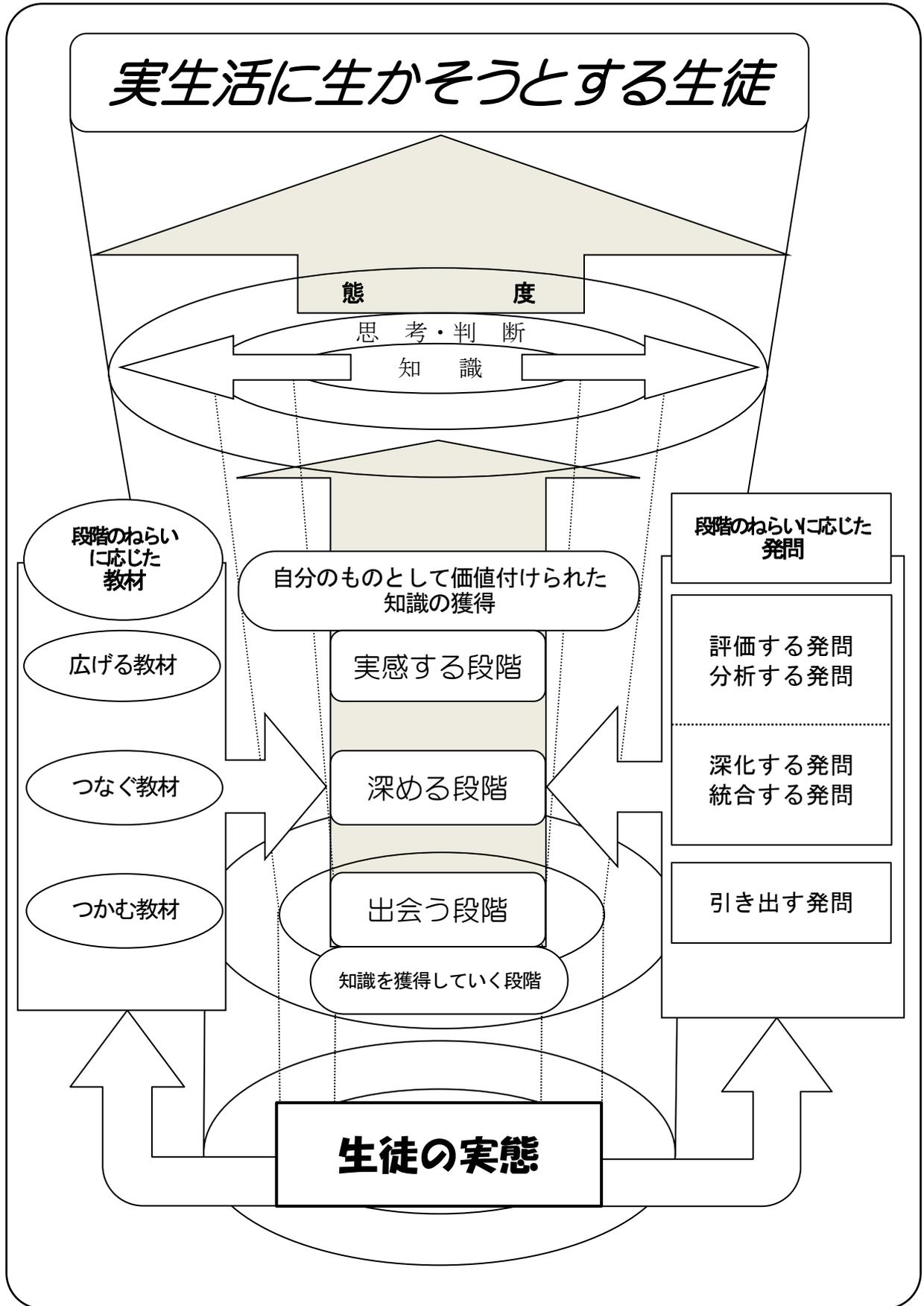
1 単位時間の授業のなかで、段階のねらいに応じて3つの教材と3～5種類の発問を選択し授業を構成していくことで、知識を獲得し、獲得した知識を実生活に生かそうとする生徒を育てる。【図4】



そこで、教材と発問の工夫については、段階のねらいに応じて設定し以下の【表3】のようにまとめた。

教材		段階とねらい	発問
ニュース 新聞記事	つかむ教材	出会う段階	引き出す発問
	学習していくきっかけや、学習内容のイメージをつかませる教材	これから学ぶ学習内容の見通しをもたせたり、これまで習得してきた知識や経験を想起させたりして、授業に対する関心・意欲を高めさせる。	教材を提示した後に、学習内容について興味・関心や疑問をもたせる発問
DVD 写真 実物の資料 模型 インターネットによる情報	つなぐ教材	深める段階	統合する発問
	出会う段階の「つかむ」教材と関連性があり、思考・判断させ、「体育理論」の学習指導内容へとつないでいく教材	これまで習得してきた知識や経験と、新しい「体育理論」の学習内容を照らし合わせたり、他者の意見を取り入れながら議論させ、議論したことを参考にし、自分の考えを再考させたりし、「体育理論」としての知識を習得させる。	これまで学習してきた内容や経験を整理し、学習指導内容と結び付けさせる発問
			深化する発問
			これから獲得していく知識がどんな意味をもっているのか考えさせる発問
			分析する発問
			これまでの知識や経験を照らし合わせながら吟味させる発問、様々な角度からの情報を絞り込み「体育理論」の知識を習得させる発問
評価する発問			
他者の意見を参考にし、自分の考えを再考させるため、他者評価させる発問			
広げる教材	実感する段階	分析する発問	
挿絵 教師の体験談 権利条約 法律 一流選手の体験談 など	「つかむ」・「つなぐ」教材に加えて、「体育理論」としての学習指導内容をより理解させ、獲得した知識を実生活へと広げる教材	「体育理論」としての知識を、より実感した、より納得した知識として自分のものとして価値付けさせる。獲得した知識を実生活に生かそうとする態度を高めさせる。	「体育理論」として習得した知識が思い込みにならないように、本当に正しいのかどうか揺さぶりをかけ、正しい答を知りたいと思わせたりより高いところに視点を与えたりすることにつなげさせる発問
			評価する発問
			生徒自ら学習を振り返らせ、頑張ったこと、大切だったところ、これから生かそうとすることを評価させる発問
			統合する発問
			これまで見えなかった事象や新たな事実に気づかせたり、“なるほど”という思いを生徒にもたせたりする発問
			深化する発問
獲得した「体育理論」の知識が教室の空間だけで終わらせるのではなく、他の場所でも生かそうとすることができるように発問したり、“努力したら解決しそうだ”という期待や希望を感じさせたりすることにつなげる発問			

【表3】 段階のねらいに応じた教材と発問



3 検証のねらいと方法

(1) ねらい

仮説に基づく実践授業により資料を収集し、結果を分析するとともに、仮説を検証する。

(2) 対象

飯塚市立飯塚第二中学校 第1学年3組 29名 第2学年2組 32名

(3) 期間

第1学年 平成23年10月4日(火)～10月6日(木) 全3時間

第2学年 平成23年10月18日(火)～10月20日(木) 全3時間

(4) 内容と方法

仮説を検証するために、1年生「運動やスポーツの多様性」、2年生「運動やスポーツが心身の発達に与える効果と安全」のそれぞれ3時間の授業と事前・事後調査を実施し、資料を収集する。

【内容】

- 設定した教材が有効であったか
- 設定した発問が有効であったか
- 実生活に生かそうとする態度の高まりがみられたか

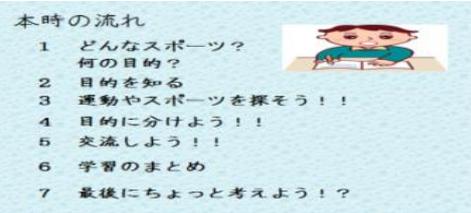
【方法】

- 事前・事後のアンケートによる調査
- ワークシートへの記述
- 学習の様相観察（活動の様子・発言・つぶやき・挙手や表情など）
- 形成的授業評価「体育授業を観察評価する 授業改善のためのオーセンティック・アセスメント（高橋健夫2003）」
- 生徒の自己評価
- 生徒の感想

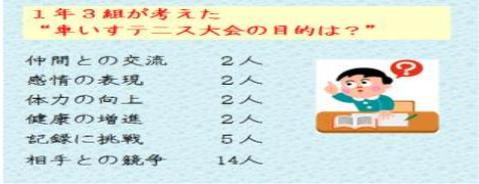
なお、これから示す教材と発問には、記号を位置付け、教材には○を、発問には□で表記している。そのあとの数字には以下のような意味をもたせている。

教材・発問記号	第1ナンバー	第2ナンバー	第3ナンバー	表記
○□	学年	時間	純粋なナンバー	○△△△
教材	1年生	1時間目	1番目	○111
発問	2年生	3時間目	4番目	□234

4 仮説検証の具体的方途

単元	1年：運動やスポーツの多様性 ア 運動やスポーツの必要性と楽しさ 第1時		
	○教材	☆段階とねらい	□発問
	つかむ教材	出会う段階	引き出す発問
○I11	<p>授業の流れを確認する教材</p> 	☆これから学ぶ学習内容の見通しをもたせる。	
○I12	<p>澤選手・老夫婦・大縄跳びといった運動やスポーツの場面の写真。</p> 	☆これまで習得してきた知識や経験を想起させ、授業に対する関心・意欲を高めていく。	<input type="checkbox"/> I11 どんな運動をしている人でしょう <input type="checkbox"/> I11 この写真の運動している人たちの楽しみは何だろう？
	つなぐ教材	深める段階	統合する発問
○I13	<p>様々な運動やスポーツの写真</p> 	☆これまで習得してきた知識や経験と、新しい「体育理論」の学習内容を照らし合わせる。 ☆他者の意見を取り入れながら議論させ、議論したことを参考にし、自分の考えを再考させる。	<input type="checkbox"/> I12 どんな目的や楽しみでそのスポーツが行われているのでしょうか。 評価する発問 <input type="checkbox"/> I13 他の班まどんな考えをもっているでしょう？
	広げる教材	実感する段階	分析・統合する発問
○I14 ○I15	<p>バレーボールの歴史の話 車イステニス大会のVTR</p> 	☆「体育理論」としての知識を、より実感した、より納得した知識として自分のものとして価値付けさせる。また獲得した知識を実生活に生かそうとする態度を高めさせる。	<input type="checkbox"/> I14 車イステニス大会に参加している人たちはどんな必要性や楽しみがあるのだろうか？

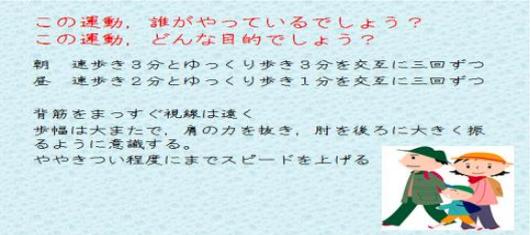
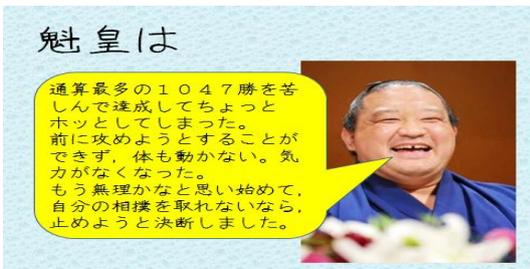
観点	生徒像	実証方法
知識	運動やスポーツの必要性と楽しさについて、言ったり書き出したりするとともに、自分のものとして価値付けることができる。	<input type="checkbox"/> ワークシート記載内容 <input type="checkbox"/> 自己評価 <input type="checkbox"/> 確認テスト <input type="checkbox"/> 観察評価 <input type="checkbox"/> ビデオ分析 <input type="checkbox"/> 事前・事後アンケート
思考判断	運動やスポーツの必要性と楽しさについて、出された意見や集めた情報を分析、整理し、自分なりの考えを再考することができる。	
態度	運動やスポーツの必要性と楽しさについて、ワークシートをまとめたり、意見を交換したりする活動を通して、学習に積極的に取り組むことができる。 自分のものとして価値付けられた知識を、自己の日常生活と結び付けようすることができる。	

単元	1年：運動やスポーツの多様性	イ 運動やスポーツの多様なかかわり方 第2時	
	○教材	☆段階とねらい	
	つかむ教材	出会う段階	
		発問	
○121	授業の流れを確認する教材	☆これから学ぶ学習内容の見通しをもたせる。	引き出す発問
○122	前時の生徒の考えを集約した教材 	☆前時で獲得した知識を想起させる。	
○123	車いすテニス大会のパンフレットと参加している人の写真	☆これまで習得してきた知識や経験を想起させ、授業に対する関心・意欲を高めていく。	□121 どこで行われている大会でしょう。
	つなぐ教材	深める段階	分析する発問
○124	車いすテニス大会のVIR 	☆車いすテニス大会を例に運動やスポーツには多様なかかわり方があることについて映像を通して分析させる。	□122 どんな人たちが映像に映っていたでしょう。
○125	車いすテニス大会における「する」「みる」「支える」をイメージさせる写真 	☆車いすテニス大会をイメージさせ、新しい「体育理論」としての知識を習得させる。 ☆分析したことと習得した「体育理論」としての知識を照らし合わせるとともに、他者の意見を取り入れながら議論させ、議論したことを参考にし、自分の考えを再考させる。 ☆他者の意見を取り入れながら議論させ、議論したことを参考にし、自分の考えを再考させる。	深化する発問 □123 みんながあげた人たちを「する」人、「みる」人、「支える」人に分けてみよう。 評価する発問 □124 他の班ほどどんな考えをもっているでしょう？
	広げる教材	実感する段階	統合する発問
○126	ワークシート いつ、どこで、〇〇をする いつ、どこで、〇〇を見る いつ、どこで、〇〇して支える	☆「体育理論」としての知識を、より実感した、より納得した知識として自分のものとして価値付けさせる。また獲得した知識を実生活に生かそうとする態度を高めさせる。	□125 これから運動やスポーツのかかわり方について考えよう

観点	生徒像	実証方法
知識	運動やスポーツのかかわり方について、言ったり書き出したりするとともに、自分のものとして価値付けることができる。	○ワークシート記載内容
思考判断	運動やスポーツのかかわり方について、出された意見や集めた情報を分析、整理し、自分なりの考えを再考することができる。	○自己評価 ○確認テスト
態度	運動やスポーツのかかわり方について、ワークシートをまとめたり、意見を交換したりする活動を通して、学習に積極的に取り組むことができる。 自分のものとして価値付けられた知識を、自己の日常生活と結び付けようすることができる。	○観察評価 ○ビデオ分析 ○事前・事後アンケート

単元	1年：運動やスポーツの多様性 ウ 運動やスポーツの学び方 第3時	
○教材	☆段階とねらい	□発問
つかも教材	出会う段階	引き出す発問
○I31 1-3 (自分たちのクラス) と卒業した3-3 (101回を記録) の体育会大縄跳びの写真を提示する。 	☆これまで習得してきた知識や経験を想起させ、授業に対する関心・意欲を高めていく。	□I31 何をしている写真でしようでしょうか。天知は？何回跳んだ？この写真は誰でしょうか？この写真の人たちは何回跳んだでしょうか？
○I32 授業の流れを確認する教材	☆これから学ぶ学習内容の見通しをもたせる。	
つなく教材	深める段階	分析する発問
○I33 101回の記録を出した卒業生の体育会大縄跳びのVTR 	☆新しい学習内容である「技術」を習得させる。 ☆自分たちのこれまで学習したことや経験したことと新しく学習した「体育理論」としての知識を照らし合わせ、新しい学習内容である「戦術」を習得させる。 ☆自分たちのこれまで経験したことと新しく学習した「体育理論」としての知識を照らし合わせ、「戦術」をより深く理解させ、「作戦」を習得させる。	□I32 自分たちの学級とたくさん跳んでいる先輩たちとの違いは？まわし方に違いを感じた人跳び方に違いを感じた人リズムに違いを感じた人並び方に違いを感じた人その他の違いは何がある？ 統合する発問 □I33 1年3組のまわし方はどうでしたか？1年3組の跳び方はどうでしたか？1年3組のリズムはどうでしたか？1年3組の並び方はどうでしたか？ 深化する発問 □I34 フラッグフットボールにおける技術は可だろ？走るプレーのことを何という？パスの名前は？これまでやったことのある戦術は何？
広げる教材	実感する段階	評価する発問
○I34 具体的な場面をイメージさせる写真 	☆「体育理論」としての知識を、より実感した、より納得した知識として自分のものとして価値付けさせる。また獲得した知識を実生活で生かそうとする態度を高めさせる。	□I35 本時で学んだことを自分たちの生活で生かせることは？

観点	生徒像	実証方法
知識	運動やスポーツの学び方について、言ったり書き出したりするとともに、自分のものとして価値付けることができる。	○ワークシート記載内容 ○自己評価 ○確認テスト ○観察評価 ○ビデオ分析 ○事前・事後アンケート
思考判断	運動やスポーツの学び方について、出された意見や集めた情報を分析、整理し、自分なりの考えを再考することができる。	
態度	運動やスポーツの学び方について、ワークシートをまとめたり、意見を交換したりする活動を通して、学習に積極的に取り組むことができる。 自分のものとして価値付けられた知識を、自己の日常生活と結び付けようすることができる。	

単元	2年：運動やスポーツが心身の発達に与える効果と安全 ア 運動やスポーツが心身に及ぼす効果 第1時		
	○教材	☆段階とねらい	□発問
	つかも教材	出会う段階	引き出す発問
	○211 なでしこジャパン、九州国際大学付属引退の写真 	☆これまで習得してきた知識や経験を想起させ、授業に対する関心・意欲を高めていく。	□211 この写真を見てどんな感情をもっているでしょう
	○212 授業の流れを確認する教材	☆これから学ぶ学習内容の通しをもたせる。	
	つなく教材	深める段階	統合する発問
	○213 学習活動の行い方と手順を示したパワーポイント 	☆これまで習得してきた知識や経験をもとに、運動やスポーツを行って効果があったことと照らし合わせる。 ☆他者の意見を取り入れながら議論させ、議論したことを参考にし、自分の考えを再考させる。	□212 これまでみなさんが運動やスポーツを通して経験したことや感じたことを思い出してみましよう 深化する発問 □213 どうなったという部分で共通するのは何だろう
	広げる教材	実感する段階	分析する発問
	○214 うつ病の方の運動療法について 	☆「体育理論」としての知識を、より実感した、より納得した知識として自分のものとして価値付けさせる。	□214 この運動、だれがやっているでしょう？ この運動、どんな目的でしょう？ □214 (1047) この数字知ってる？ 魁皇の表情はどう？
	○214 大関魁皇引退会見 		
		☆獲得した知識を実生活に生かそうとする態度を高めさせる。	評価する発問 □215 体への効果と心への効果は今後どのように生かすことができるでしょう

観点	生徒像	実証方法
知識	運動やスポーツが心身に及ぼす効果について、言ったり書き出したりするとともに、自分のものとして価値付けることができる。	○ワークシート記載内容 ○自己評価 ○確認テスト ○観察評価 ○ビデオ分析 ○事前・事後アンケート
思考判断	運動やスポーツが心身に及ぼす効果について、出された意見や集めた情報を分析、整理し、自分なりの考えを再考することができる。	
態度	運動やスポーツが心身に及ぼす効果について、ワークシートをまとめたり、意見を交換したりする活動を通して、学習に積極的に取り組むことができる。 自分のものとして価値付けられた知識を、自己の日常生活と結び付けようすることができる。	

単元	2年：運動やスポーツが心身の発達に与える効果と安全 イ 運動やスポーツが社会性の発達に及ぼす効果 第2時		
	○教材	☆段階とねらい	□発問
	つかも教材	出会う段階	引き出す発問
	○221 授業の流れを確認する教材	☆これから学ぶ学習内容の見直しをもたせる。	
	○222 体育会の大縄跳びの写真	☆これまで習得してきた知識や経験を想起させ、授業に対する関心・意欲を高め	□221 天気はどうだったでしょう 何回跳んだか覚えていますか
	○222 社会性を確認する保健の教科書	ていく。	□221 社会性覚えているかな？
	つなく教材	深める段階	統合する発問
	○223 昨年の3年3組の大縄跳びのVTR 	☆101回の記録を出した3年3組の大縄跳びを見て、自分たちとの跳び方の違いについて照らし合わせる。	□222 101回跳べた理由は何かだろう？
		☆他者の意見を取り入れながら議論させ、議論したことを参考にし、自分の考えを再考させる	□223 他の班まどんな考えをもっているでしょう？
	広げる教材	実感する段階	分析する発問
	○224 ザッケローニ監督の写真と談話 	☆「体育理論」としての知識を、より実感した、より納得した知識として自分のものとして価値付けさせる。	□224 「荷物を自分で運び、試合後の後片付けまでする。ボールを磨き大切にすること。今までにこんなチームは見たことがない。日本の優れた文化を引き続き大切に育みながら頂点を目指します。」と日本代表を絶賛した！！
	○225 なでしこジャパン佐々木監督の世界に勝つための11の心得 	☆獲得した知識を実生活に生かそうとする態度を高めさせる。	□225 ワールドカップで優勝したなでしこジャパンの佐々木監督が選手に伝えた11の心得ってなんだろう？

観点	生徒像	実証方法
知識	運動やスポーツが社会性の発達に及ぼす効果について、言ったり書き出したりするとともに、自分のものとして価値付けることができる。	○ワークシート記載内容
思考判断	運動やスポーツが社会性の発達に及ぼす効果について、出された意見や集めた情報を分析、整理し、自分なりの考えを再考することができる。	○自己評価
態度	運動やスポーツが社会性の発達に及ぼす効果について、ワークシートをまとめたり、意見を交換したりする活動を通して、学習に積極的に取り組むことができる。	○確認テスト
	自分のものとして価値付けられた知識を、自己の日常生活と結び付けようすることができる。	○観察評価 ○ビデオ分析 ○事前・事後アンケート

単元	2年：運動やスポーツが心身の発達に与える効果と安全 ウ 安全な運動やスポーツの行い方 第3時		
	○教材	☆段階とねらい	□発問
	つかも教材	出会う段階	引き出す発問
○231	授業の流れを確認する教材	☆これから学ぶ学習内容の見通しをもたせる。	
○232	大関魁皇、丸山選手、ジミー・ロリンズ選手 	☆これまで習得してきた知識や経験を想起させ、授業に対する関心・意欲を高めしていく。	□231 皆さんが運動やスポーツをしていてけがをした例を考えよう
	つなぐ教材	深める段階	分析する発問
○233	けがについての事例（教師の体験談） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">事例 私はバレーボールの大会に出場しました。大会前日、私は身長が174cmしかなくジャンプ力をつけなかったため、腕立て伏せを300回してめちゃくちゃ頑張ったので、腕立て伏せを回りました。大会当日、肩が痛かったけれどエースとしての意地で、試合では思い切りスパイクを打ちました。その日は気温35℃の中でしたが、そんなにももどいていなかったため、水分は補給せず試合に出場したため、多少動きが悪く、汗で床がぬれていたこともあり、ねんざしてしまいました。たいしたことないと思いそのまま試合を続けましたが、そのうち立てなくなり救急車で運ばれました。</div>	☆教師の体験談を例にけがの理由について資料を分析させる。 ☆他者の意見を取り入れながら議論させ、議論したことを参考にし、自分の考えを再考させる。 ☆これまで習得してきた知識や経験と、新しい「体育理論」の学習内容を照らし合わせる。	□232 事例についてけがをした理由を考えよう。 深化する発問 □233 事例で上げた怪我の理由を安全な運動やスポーツを行うための重要事項に結び付けよう 統合する発問 □234 自分のけがの理由は何だろう。
	広げる教材	実感する段階	
○234	体育及びスポーツに関する国際憲章 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">体育およびスポーツに関する国際憲章 1978年11月21日 ユネスコ総会 採択 あらゆる段階の政府、公当局、学校及び適当な私的機関は、協力し、ともに計画して、体育・スポーツの施設、設備、用具を提供し、最適な条件で利用できるようにする義務がある。 本日 安全 昨日 体育・スポーツは社会関係を豊かにし、スポーツだけでなく社会生活にとっても多くののできないフィジカルを促進させる。 社会性 一昨日 体育・スポーツを通じて肉体的、知的、道徳的能力を促進させることを保障されなければならない 体と心</div>	☆「体育理論」としての知識を、より実感した、より納得した知識として自分のものとして価値付けさせる。	
○235	教師の体験談 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">先生が感じたこと！！ 汗をたくさんかいた（体への効果）1時間目 体重が減った4kg↓（体への効果）1時間目 達成感を味わった（心への効果）1時間目 意欲が向上した（心への効果）1時間目 リラックスした（心への効果）1時間目 リフレッシュした（心への効果）1時間目 きつくなったら止めよう（ルールの工夫）2時間目 ゆっくりストレッチ（準備運動・整理運動）本日 きつくなったら止めよう（体調・安全の確認）本日 のどかわいたなあ（適切な休憩・水分補給）本日 反省すること（計画的ではなかった）本日</div>	☆獲得した知識を実生活に生かそうとする態度を高めさせる。	評価する発問 □235 これから運動やスポーツを行う際、自分ができるようなことはあるだろうか？

観点	生徒像	実証方法
知識	安全なスポーツの行い方について、言ったり書き出したりするとともに、自分のものとして価値付けることができる。	○ワークシート記載内容 ○自己評価 ○確認テスト ○観察評価 ○ビデオ分析 ○事前・事後アンケート
思考判断	安全なスポーツの行い方について、出された意見や集めた情報を分析、整理し、自分なりの考えを再考することができる。	
態度	安全なスポーツの行い方について、ワークシートをまとめたり、意見を交換したりする活動を通して、学習に積極的に取り組むことができる。 自分のものとして価値付けられた知識を、自己の日常生活と結び付けようすることができる。	

VI 研究の実際と考察

第1学年 実証単元 平成23年10月4日(火)～10月6日(木) (全3時間)

飯塚市立飯塚第二中学校 第1学年3組 29名 (男子15名 女子14名)

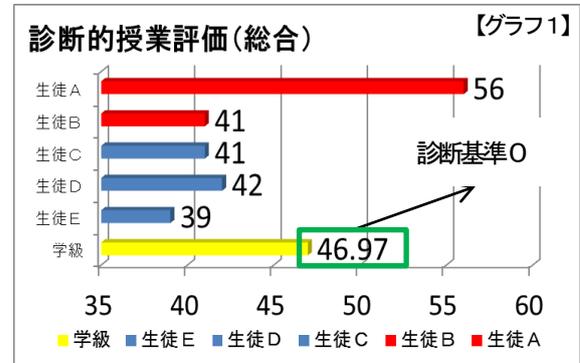
単元名「運動やスポーツの多様性」

於 第1学年3組教室

1 事前調査

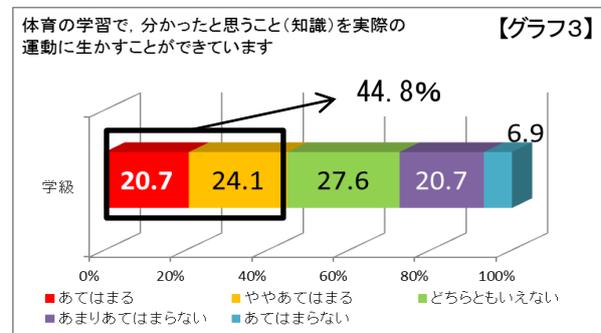
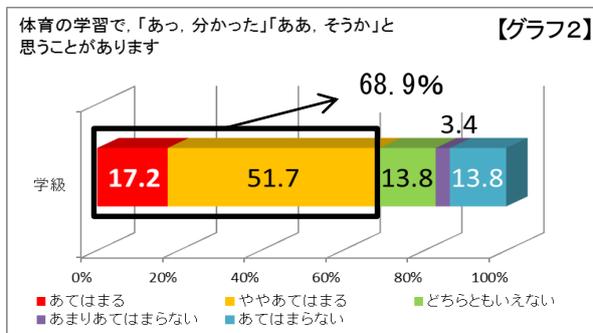
(1) 診断的授業評価

子どもの保健体育科授業についての学習課題を把握するために、授業評価尺度(2003.10.10『体育授業を観察評価する』)を用いた診断的授業評価を行った。本研究は運動領域ではないが、「体育理論」で学習したことを運動領域に生かすため、実態を把握するために調査した。学級全体の総合評価の平均点は46.97点と中学校段階の診断基準0(47.45～41.22点)内に位置しており、保健体育科授業の意欲に関しては、標準的な学級であることが分かった。【グラフ1】



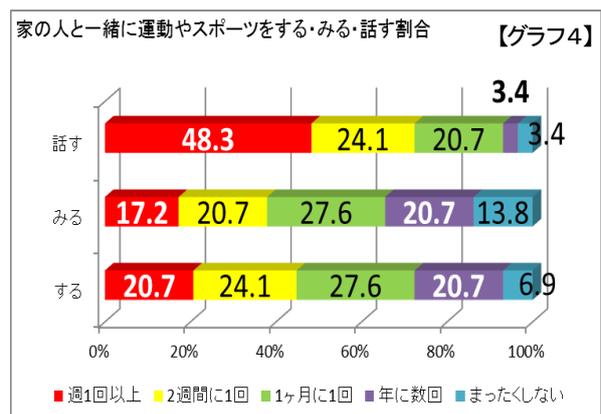
(2) 知識に関する意識調査

事前調査のアンケートで、「体育の学習で、『あっ、分かった』『ああ、そうか』と思うことがあります」という質問に対して、68.9%の生徒が、“あてはまる”“ややあてはまる”と答えている。【グラフ2】一方「体育の学習で、分かったと思うこと(知識)を実際の運動に生かすことができます」という質問に対して、“あてはまる”“ややあてはまる”と答えた生徒は44.8%と半数に至らない現状であった。【グラフ3】



(3) スポーツと家庭とのかかわり方についての調査

事前調査のアンケートで、「家の人と一緒に運動やスポーツをする・みる・話す」について質問したところ“する”と“みる”については、若干の生徒しか家庭とかかわりをもつことができていない実態がある。“話す”という質問については、約半数の生徒が家庭とかかわりをもつことができています。【グラフ4】本学級は、運動部活動に所属している生徒が約80%いることから、家庭で部活動について会話をしていると考えられる。



これらの調査結果をもとに、次のような【表4】に示すような生徒を抽出した。

	診断的授業評価	知識定着	知識活用	家庭でする	家庭でみる	家庭で話す
生徒A	診断基準+ 学級平均より高い	△	○	しない	年に数回	週に1回
生徒B	診断基準- 学級平均より低い	-	△	年に数回	しない	2週に1回
生徒C	診断基準- 学級平均より低い	-	-	しない	週に1回	しない
生徒D	診断基準0 学級平均より低い	△	×	年に数回	2週に1回	2週に1回
生徒E	診断基準- 学級平均より低い	△	▼	1ヶ月1回	1ヶ月1回	1ヶ月1回

※ ○:あてはまる △:ややあてはまる -:どちらともいえない ▼:あまりあてはまらない ×:まったくあてはまらない

【表4】 1年生抽出生徒

事前調査における運動やスポーツへのこれまでのかかわりの自由作文の具体的な記述については以下のとおりである。

生徒A・生徒Bについては、運動やスポーツに興味・関心が高いが、家庭とのかかわりが低い群として抽出した。

【生徒A】

16 あなた自身がこれまで、運動やスポーツにどのように関わってきたか文章にまとめてみましょう。

週に1回ダンスの練習をしています。リズムのつよいダンスが大好きです。

年に1回結構な場所をクラスでダンスを踊ります。

将来はダンスにはなりたいけど、ダンスが大好きなままではおどろいてます。

後、部活です。あまり足が速くありませんがみんなと部活するのはとても楽しいです。

【生徒B】

16 あなた自身がこれまで、運動やスポーツにどのように関わってきたか文章にまとめてみましょう。

部活をはじめた事でスポーツに関わりました。

生徒C・生徒D・生徒Eについては、運動やスポーツに対して興味・関心が著しく低く、家庭とのかかわりも低い群として抽出した。

【生徒C】

16 あなた自身がこれまで、運動やスポーツにどのように関わってきたか文章にまとめてみましょう。

ありません。

【生徒D】

16 あなた自身がこれまで、運動やスポーツにどのように関わってきたか文章にまとめてみましょう。

特にありません

【生徒E】

16 あなた自身がこれまで、運動やスポーツにどのように関わってきたか文章にまとめてみましょう。

おじさん

(1) 目指す生徒像

ア 運動やスポーツの必要性和楽しさについて、言ったり書き出したりするとともに、自分のものとして価値付けることができる。
 イ 運動やスポーツの必要性和楽しさについて、出された意見や集めた情報を分析、整理し、自分なりの考えを再考することができる。
 ウ 運動やスポーツの必要性和楽しさについて、ワークシートをまとめたり、意見を交換したりする活動を通して、学習に積極的に取り組むことができる。また自分のものとして価値付けられた知識を自己の日常生活と結び付けようとしている。

(2) 授業展開

学習内容 (◎) 学習活動 (◆) 教師の支援 (◇) 教材 (○) 発問 (□)	子どもの姿 (生徒A・B・C・D・Eの反応)
<p>出会う段階 これから学ぶ学習内容の見通しをもたせたり、これまで習得してきた知識や経験を想起させたりして、授業に対する関心・意欲を高めていく。</p> <p>◆授業の流れを確認する。 ○111 授業の流れを確認する教材 (つかも教材)</p> <div data-bbox="175 851 598 1064"> <p>本時の流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 どんなスポーツ? 何の目的? 2 目的を知る 3 運動やスポーツを探そう!! 4 目的に分けよう!! 5 交流しよう!! 6 学習のまとめ 7 最後にちょっと考えよう!?  </div> <p>◆スポーツの目的をこれまでの経験から照らし合わせる。 ○112 澤選手・老夫婦・大縄跳びといった運動やスポーツの場面の写真 (つかも教材) □111 この写真の運動している人たちの楽しみは何だろう? (引き出す発問)</p> <div data-bbox="167 1355 590 1657">  </div>	<p>子どもの姿 (生徒A・B・C・D・Eの反応)</p> <div data-bbox="630 750 1061 974">  <p>【写真1】 授業の流れを確認する生徒</p> </div> <div data-bbox="630 1008 1077 1467"> <p>T: なんのスポーツ? □111 C1: サッカー(全員) T: 名前まで知っているかな? □111 C2: 澤選手(全員) T: 澤選手の楽しみってなんだろう? □111 C3: 返事なし T: 最後 なんのスポーツやってる? □111 C4: 大縄 (ほぼ全員の生徒が答える) T: だれたちかわかる? □111 C5: 3組 (ほぼ全員の生徒が答える) T: この人たちの楽しみってなんだろう? □111 C6: 返事なし</p> </div> <div data-bbox="1085 840 1444 907"> <p>テレビに注目し、これから学ぶ学習内容の確認をしている。</p> </div> <div data-bbox="1109 1019 1428 1377">  <p>【写真2】 引き出す発問に反応できず首をかき上げる生徒</p> </div> <p>生徒A: 活発に反応する。 生徒B: 写真を見て、うなずいている。 生徒C: 写真は見ているが無反応である。 生徒D: 写真を見て、うなずいている 生徒E: 写真を見て、うなずいている。</p>
<p>深める段階 これまで習得してきた知識や経験と、新しい「体育理論」の学習内容を照らし合わせたり、他者の意見を取り入れながら議論させ、議論したことを参考にし、自分の考えを再考させたりし、「体育理論」としての知識を習得させる。</p> <p>◎運動やスポーツの必要性和多様な楽しさについて知る。 ◆「体育理論」の知識を習得する。 ○113 様々な運動やスポーツの写真 (つなく教材)</p>	<div data-bbox="630 1825 1436 2027"> <p>T: 運動やスポーツがどんな目的で行われるのかまとめよう T: いろいろな運動やスポーツを写していますがまず健康増進があります。2つ目は体力の向上です。生きていく上で必要なものという考え方です。この二つをあわせて必要性といいます。ワークシートに記入しよう。 C7: ワークシートを記入する。</p> </div>

◇必要性について理解させる。
健康増進をイメージさせる写真



体力向上をイメージさせる写真



◇多様な楽しさについて理解させる。
記録に挑戦をイメージさせる写真



相手との競争をイメージさせる写真



自然との触れあいをイメージさせる写真



仲間との交流



感情の表現



◆ブレインストーミングをする。
◇知っているスポーツをたくさんあげさせる。

◆カテゴリー化する。

【資料1】 生徒A・Bのワークシート

必要性	
健康増進	体力向上
必要性	
健康増進	体力向上

必要性かあ



【写真3】 つなぐ教材をテレビで確認する生徒

T: 次は室伏選手ですけど何投げてる人だっけ?

C8: (ほぼ全員) ハンマー!!

T: この人の目的は記録に挑戦することですね。

T: 相手と競争するという楽しみ方があります。さっきの写真の澤選手のサッカーですね。

【資料2】 生徒C・Dのワークシート

多様な楽しみ		
記録に挑戦	相手との競争	自然との触れあい
仲間との交流	感情の表現	
多様な楽しみ		
記録に挑戦	相手との競争	自然との触れあい
仲間との交流	感情の表現	

多様な楽しみって何だろう?



【写真4】 つなぐ教材をテレビで確認する生徒C・D

T: それから自然と触れ合うという楽しみ方があります。このスポーツ何か知っているかな? 飯家ではなかなか目にすることはないけどね。

C9: 返事なし

T: スキューバダイビングやね。魚や珊瑚と触れあいを楽しむスポーツです。

T: それからみなさんの写真を利用しましたが、仲間と交流するという楽しみ方があります。少しでも多くの回数を跳ぼうとみんな協力できていましたね。

T: 最後にダンスをしている写真ですけれども、感情を表現するという楽しみ方があります。

T: 運動やスポーツには多様な楽しみ方があるということをおさえましょう。

T: みんなが知っているスポーツの名前をたくさんあげよう



【写真5】 ブレインストーミングで相談しながら付箋に記入する生徒A・B



【写真6】 ブレインストーミングで相談しながら付箋に記入する生徒C・D

□112 どんな目的や楽しみでそのスポーツが行われているのでしょうか。
(統合する発問)

- ◇グループで
- 健康増進
- 体力向上
- 記録に挑戦
- 相手との競争
- 自然との触れ合い
- 仲間との交流
- 感情の表現
- の7つのカテゴリーに分類させる。

◆他の班の様子を見て回る。

□113 他の班はどんな考えをもっているのでしょうか？ (評価する発問)

◆自分たちの目的を最終的に整理する。

◆各班1つ目的と運動やスポーツの名称を発表する。

- ◇発表する人はあらかじめ指示する。
- ◇”発表しやすいように〇〇の目的で△△のスポーツをあげました。”と発表させる。
- ◇発表した内容を板書し整理する。

T: みんなの考えを班でまとめていく作業に入りましょう。
T: どんな目的や楽しみでみんながあげたスポーツが行われているのでしょうか。
T: いっぱいそこに挙がっていますよね。どんな目的で行われているのかということを考えてながら横書きで付箋を貼っていきましょう。



【写真7】 カテゴリー化で相談しながら付箋に記入する生徒E

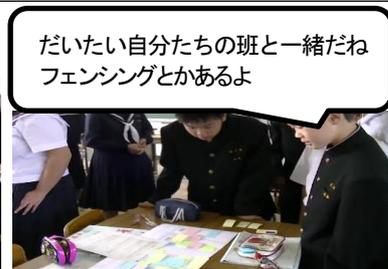


【写真8】 カテゴリー化で相談しながら付箋に記入する生徒C・D

T: いいアイデアが出ていますね。全ての項目みなさん貼っていますか?
C10: 貼ってないね
T: ”もしかしら貼っていない項目にも貼れることができる運動やスポーツがあるので”と考えるながら、1分間だけです。他の班はどんな考えをもっているのでしょうか?
T: 席を立て、見て回って参考にしましょう



【写真9】 他の班を参考にする生徒C



【写真10】 他の班を参考にする生徒D



【写真11】 自分たちの班の考えを整理する生徒E

生徒D: 記録でスノーボード
T: 点数競技だもんね
生徒A: 自然との触れあいでスカイダイビング
T: その他これは紹介したいというものあるかな
生徒D: 競走でサッカー
C11: 記録でオートレース
T: モータースポーツと言われるね。飯塚ならでございね



【写真12】 自分たちの班の考えを発表する生徒D 1回目



【写真13】 自分たちの班の考えに自信をもつことができた生徒D 2回目

実感する段階

「体育理論」としての知識を、より実感した、より納得した知識として自分のものとして価値付けさせる。また獲得した知識を実生活に生かそうとする態度を高めさせる。

◎社会の変化から運動やスポーツのとらえ方が変わってきたことについて知る。

○114 バレーボールの歴史の話 (広げる教材)

◆ワークシートに歴史の変化から発展してきたことをまとめる。

◆車いすテニス大会のVTRを視聴する。

○115 車いす大会のVTR (広げる教材)



□114 車いすテニス大会に参加している人たちはどんな必要性や楽しみがあるのだろうか？

(分析・統合する発問)

◆今日の授業を自己評価する。

T: バレーボールはモルガンさんが発明しました。モルガンさんはテニスをしようとしたがラケットを忘れてしまい、直接手でボールを打って楽しみました。これがバレーボールの始まりです。しかもバレーボールはもっと発展します。目的や楽しみ方の違いでルールを変更してママさんバレー、ビーチバレー、ソフトバレーに発展してきました。



【写真14】 広げる教材に反応する生徒C

T: 知ってるかな? このスポーツ

C12: 車いすテニス

T: テニスはテニスでも車いすを必要とする方のテニスへと発展してきたんですね。

T: この方たちの目的や楽しみは何だろう

T: 今日みんなが分類した目的の○をつけてみましょう。

生徒が考えた車いすテニス大会に参加している方々の必要性や楽しみを選択した結果

生徒A: 体力の向上

生徒B: 感情の表現

生徒C: 記録に挑戦

生徒D: 相手との競争

生徒E: 相手との競争

出会う段階までの板書

めあて

運動やスポーツがどのように発展してきたかを知り、私たちの生活と結びつけよう

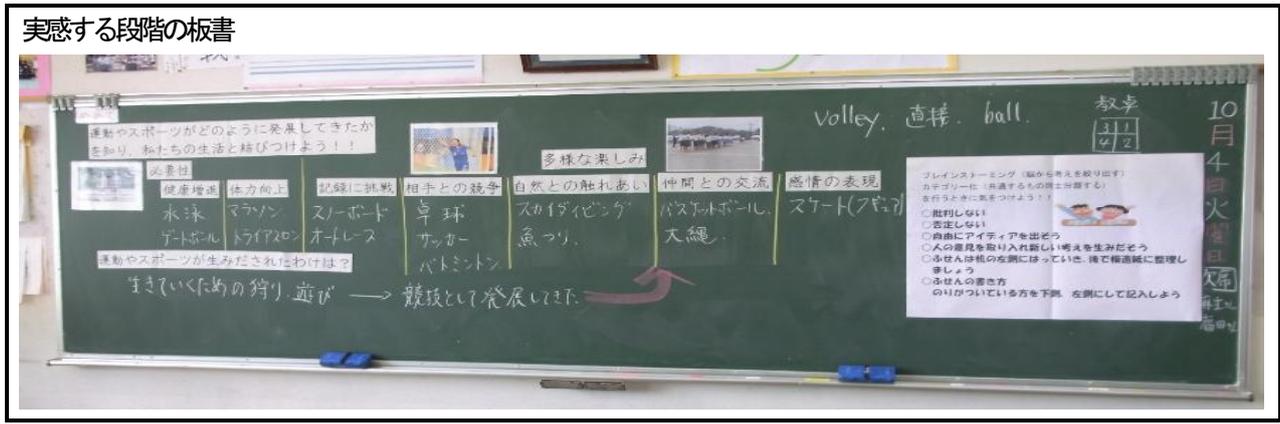


深める段階までの板書

めあて

運動やスポーツがどのように発展してきたかを知り、私たちの生活と結びつけよう

必要性		多様な楽しみ				
健康増進	体力向上	記録に挑戦	相手との競争	自然との触れあい	仲間との交流	感情の表現
水泳	マラソン	スノーボード	卓球	スカイダイビング	バスケット	スケート
ゲートボール	トライアスロ	オートレース	サッカー	魚釣り	大縄とび	
			バトミントン			



3 第2時 「運動やスポーツへの多様なかかわり方」 10月5日(水) 第3校時

(1) 目指す生徒像

- ア 運動やスポーツのかかわり方について、言ったり書き出したりするとともに、自分のものとして価値付けることができる。
- イ 運動やスポーツのかかわり方について、出された意見や集めた情報を分析、整理し、自分なりの考えを再考することができる。
- ウ 運動やスポーツのかかわり方について、ワークシートをまとめたり、意見を交換したりする活動を通して、学習に積極的に取り組むことができる。また、自分のものとして価値付けられた知識を、自己の日常生活と結び付けようすることができる。

(2) 授業展開

段階	学習内容 (◎) 学習活動 (◆) 教師の支援 (◇)	研究に関わる手立て		
		○教材	☆段階のねらい	□発問
出会う	<ul style="list-style-type: none"> ◆授業の流れを確認する。 ◆前時で学習した車いすテニス大会の目的を確認する。 ◆車いすテニス大会を想起する。 ◆めあてを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○121 つかむ教材 ○122 つかむ教材 ○123 つかむ教材 	<ul style="list-style-type: none"> ☆これから学ぶ学習内容の見通しをもたせる。 ☆前時で習得した知識を想起させる。 ☆これまで習得してきた知識や経験を想起させ、授業に対する関 	<ul style="list-style-type: none"> □121 引き出す発問
運動やスポーツのかかわり方について知り、私たちの生活と結びつけよう				
深める	<ul style="list-style-type: none"> ◎「する」「みる」「支える」など多様なかかわりがあることについて知る。 ◆VTRを視聴する。 ◇映像を見て分析させる。 ◆ブレインストーミングをする。 ◇映像の中にどんな人が写っているか付箋に記入させながら視聴させる。 ◆体育理論の知識を習得する。 ◇ワークシートにまとめさせる。 ◆カテゴリー化する。 ◇”何を目的に”をキーワードにグループで分類させる。 ◇3分間で付箋を分類させる。共通する目的を探させる。 ◆他の班の様子を見て回る。 ◆自分たちの目的を最終的に整理する。 ◆各班1つ人と目的を発表する。 ◇発表する人はあらかじめ指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○124 つなぐ教材 ○125 つなぐ教材 	<ul style="list-style-type: none"> ☆車いすテニス大会を例に運動やスポーツには多様なかかわり方があることについて映像を通して分析させる。 ☆車いすテニス大会をイメージさせ、新しい「体育理論」としての知識を習得させる。 ☆新しい「体育理論」として習得した知識をより深めさせる。 ☆他者の意見を取り入れながら議論させ、議論したことを参考にし、自分の考えを再考させる。 	<ul style="list-style-type: none"> □122 分析する発問 □123 深化する発問 □124 評価する発問

<p>実感する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆これからのかかわり方についてキーワードを利用して作文をつくる。 ◆作った作文を紹介する。 ◆今日の授業を自己評価する。 	<p>○126 広げる教材</p>	<p>☆「体育理論」としての知識を、より実感した、より納得した知識として自分のものとして価値付けさせる。また獲得した知識を実生活に生かそうとする態度を高めさせる。</p>	<p>□125 統合する発問</p>
-------------	--	-------------------	---	--------------------

出会う段階までの板書
めあて

運動やスポーツのかかわり方について知り、私たちの生活と結びつけよう



深める段階までの板書
めあて

運動やスポーツのかかわり方について知り、私たちの生活と結びつけよう

する ←→ みる

車イステニス大会

直接運動やスポーツを行うかかわり方

支える

メディアや直接観戦を通して運動やスポーツを見るかかわり方

地域で指導したり、ボランティアとして支援を行ったり、大会の運営や障がい者支援を行ったりするかかわり方

実感する段階の板書

4 第3時 「運動やスポーツの学び方」 10月6日(木) 第3校時

(1) 目指す生徒像

<p>ア 運動やスポーツの学び方について、言ったり書き出したりするとともに、自分のものとして価値付けることができる。</p> <p>イ 運動やスポーツの学び方について、出された意見や集めた情報を分析、整理し、自分なりの考えを再考することができる。</p> <p>ウ 運動やスポーツの学び方について、ワークシートをまとめたり、意見を交換したりする活動を通して、学習に積極的に取り組むことができる。また、自分のものとして価値付けられた知識を、自己の日常生活と結び付けようすることができる。</p>
--

(2) 授業展開

段階	学習内容 (◎)・学習活動 (◆) 教師の支援 (◇)	研究に関わる手立て		
		○教材	☆段階のねらい	□発問
出会う	<p>◆体育会の大縄跳びの写真を提示し体育会を想起する。</p> <p>◆めあてを確認する。</p>	○131 つかむ教材	☆これまで習得してきた知識や経験を想起させ、授業に対する関心・意欲を高めていく。	□131 引き出す発問
	<p>◇運動やスポーツの学び方について知り、私たちの生活と結びつけよう</p> <p>◆授業の流れを確認する。</p>	○132 つかむ教材	☆これから学ぶ学習内容の見通しをもたせる。	
深める	<p>◎運動やスポーツには特有の技術、戦術、作戦があることについて知る。</p> <p>◆VTRを視聴する。</p> <p>◇映像を見て分析させる。</p> <p>◆ブレインストーミング</p> <p>◇映像を見た後、自分たちの学級とたくさん跳んでいる先輩たちとの違いをワークシートに記入させる</p> <p>◆「技術」について知る。</p> <p>◇先輩との違いに気が付いた項目について挙手させる。</p> <p>◆「戦術」について知る。</p> <p>◇本年度1年3組が跳んだ際の跳び方、回し方、リズム、並び方の項目から一つ技術を選択させ、「戦術」と結び付ける</p>	○133 つなく教材	☆新しい「体育理論」の知識である「技術」を理解させる。	□132 分析する発問
	<p>◆「作戦」について知る。</p> <p>◇フラッグフットボールと結び付け、作戦会議(ハドル)について考えさせる。</p>		☆自分たちのこれまで学習したことや経験したことと新しく学習した「体育理論」としての知識である「技術」を照らし合わせ、新しい「体育理論」としての知識である「戦術」を理解させる。 ☆自分たちのこれまで経験したことと新しく学習した「体育理論」としての知識を照らし合わせ、「技術」と「戦術」をより深く理解させ、「作戦」を習得させる。	□133 統合する発問 □134 深化する発問

実感する	◎運動やスポーツの学び方について知る。 ◇ワークシートに記入させ本時でおさえたいことをまとめさせる。 ◆自己の生活と結びつける。 ◇ワークシートに記入させる。 ◆今日の授業を自己評価する。	○134 広げる教材	☆「体育理論」としての知識を、より実感した、より納得した知識として自分のものとして価値付けさせる。また獲得した知識を実生活に生かそうとする態度を高めさせる。	□135 評価する発問
------	--	------------	--	-------------

出会う段階までの板書

めあて
 運動やスポーツの学び方について知り、私たちの生活と結びつけよう



深める段階までの板書

めあて

よい動きを見つける

→

目標・計画を立てる

→

実践する

→

確認する

運動やスポーツの学び方について知り、私たちの生活と結びつけよう



跳び方	ももから	膝から
回し方	大きく	小さく
リズム		速く
並び方	1列	2列
技術		戦術
合理的な体の動かし方		技術を選択すること
はしる	ラン	ピッチ
なげる	ピッチ	縦パス
取る	ボール	フラッグ

3年3組の作戦
 前半はひざ、後半はもも
 2分必ず跳び続ける
 リズムを取るため声を大きく

作戦
 相手のチームに勝つための方針

ハドル
 作戦会議



5 第1学年考察

(1) 出会う段階

ねらい

これから学ぶ学習内容の見通しをもたせたり、これまで習得してきた知識や経験を想起させたりして、授業に対する関心・意欲を高めていく。

出会う段階におけるねらいに対する教材と発問の効果について

時間	つかむ教材	引き出す発問	ねらいに対する効果
第1時	○I11 授業の流れを確認するパワーポイント		これから学ぶ学習の見通しをもたせることができた。
	○I12 澤選手・老夫婦・大縄跳びといった運動やスポーツの場面の写真	□I11 「どんな運動をしている人でしょう?」「この写真の運動している人たちの楽しみは何だろう?」	これまで習得してきた知識や経験を想起させることができた。
第2時	○I21 授業の流れを確認するパワーポイント		これから学ぶ学習の見通しをもたせることができた。
	○I22 前時の車いすテニス大会の目的や楽しみについて生徒の考えを集約した教材		前時で学習した内容を想起させることができた。
	○I23 車いすテニス大会のパンフレットと参加している人の写真	□I21 「どこで行われている大会でしょう?」	これまで習得してきた知識や経験を想起させることができなかった。
第3時	○I31 1-3 (自分たちのクラス) と卒業した3-3 (101回を記録) の体育会大縄跳びの写真	□I31 「何をしている写真でしょう」「天気は?」「何回跳んだ?」「この写真は誰でしょう」「この写真の人たちは何回跳んだでしょう?」	これまで習得してきた知識や経験を想起させることができた。
	○I32 授業の流れを確認するパワーポイント		これから学ぶ学習の見通しをもたせることができた。

【表5】

【表5】の効果があった事柄について、段階のねらいに応じた手立てとして、学習していくきっかけや、学習内容のイメージをつかませる教材を提示し、学習内容について興味・関心や疑問をもたせる発問が有効であったと考える。その根拠を以下に述べる。

一つ目は、第1時の生徒の様子と生徒Dの記述からである。澤選手の写真を提示したところ全員が澤選手を知っていた。【p18 C1, C2】次に「澤選手の楽しみってなんだろう」という教師の発問に対し、澤選手の話は知っているものの、返答に困ってしまいすぐに反応できず、【p18・C3】澤選手の楽しみを真剣に考える様子が見られた。【p18 写真2】その時の思いを生徒Dは、「最初はどんなことをする人だろう」【資料3】と疑問を抱いた記述をしている。その後生徒Dは、「「なるほど」スポーツはこんな風に発展してきたのかと思いました。」と記述している。【p31 資料10】これらの記述から、出会う段階で疑問を抱いたことが、学習に対する関心・意欲の高め、知識の獲得につながったと考える。この様子と記述から、教材を提示し発問をすることで新たな疑問やこれから学習していく内容に興味を抱くことができ、授業に対する関心・意欲が高まっていると言える。

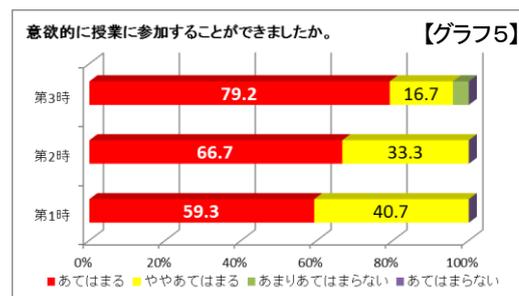
【資料3】 生徒Dのワークシート

最初は、どんなことをする人だろうと思い、今日の学習の内容の想像ができませんでした。

二つ目は、第2時において、車いすテニス大会が地元飯塚市で開催されていることから、身近な教材として準備していたが、実際には車いすテニス大会が本市で開催されていることを知らない生徒が多く、車いすテニス大会を想起させることができなかつたことである。そこで、どこで行われているのか疑問に思う様子から、飯塚市で開催されていることや隣の中学校がボランティアで参加していることなどを伝えることで、車いすテニス大会を身近なものとして感じさせながら、知的好奇心を高めていった。ここでは、生徒の実態をより深く把握し、教材と発問を設定する必要があつた。具体的には「する」「みる」「支える」が関連している教材として、その時期に行われているスポーツの祭典やもっと身近なところで生徒全員が参加した体育会などが適切であつたのではないかと考える。

三つ目は、授業後の自己評価からである。「意欲的に授業に参加することができましたか」という質問に対し、ほとんどの生徒が“あてはまる”“ややあてはまる”と回答しており、意欲的に授業に参加することができている。

【グラフ5】このことは、1時間の授業を通して、様々な学習活動を行った結果であるが、出会う段階において、教材と引き出す発問を手立てとし、授業に対する見通しをもたせたり、これまで習得してきた知識や経験を想起させたりすることで、授業に対する関心・意欲を高めたことが一つの要因であると考えられる。



以上のことから学習していくきっかけや、学習内容のイメージをつかませる教材を使用することと、疑問や興味をもたせるような発問をすることは、生徒にとって、これまでの授業やメディアを通して習得してきた知識や実際の生活の中などで経験したことを想起させ、授業に対する関心・意欲を高める上で有効な手立てであつたと考えられる。

(2) 深める段階

ねらい

これまで習得してきた知識や経験と、新しい「体育理論」の学習内容を照らし合わせたり、他者の意見を取り入れながら議論させ、議論したことを参考にし、自分の考えを再考させたりし、「体育理論」としての知識を習得させる。

深める段階におけるねらいに対する教材と発問の効果について

時間	つなぐ教材	発問	ねらいに対する効果
第1時	○I13 様々な運動やスポーツの写真	□I12 統合する発問 「どんな目的や楽しみでそのスポーツが行われているのでしょうか」	これまで習得してきた知識や経験と、新しい「体育理論」の学習内容を照らし合わせたり、他者の意見を取り入れながら議論させ、議論したことを参考にし、自分の考えを再考させたりすることができた。
		□I13 評価する発問 「他の班はどんな考えをもっているでしょう」	他者の意見を取り入れながら議論させ、議論したことを参考にし、自分の考えを再考させることができた。
第2時	○I24 車いすテニス大会のVIR	□I22 分析する発問 「どんな人たちが映像に映っていたでしょう」	多様なかかわり方があることについて分析させることができた。

第2時	○125 車いすテニス大会における「する」「みる」「支える」をイメージさせる写真	□123 深化する発問 「みんながあげた人たちを『する』人、『みる』人、『支える人』に分けてみよう」	分析したことと習得した「体育理論」としての知識を照らし合わせることができた。
		□124 評価する発問 「他の班ほどんな考えをもっているでしょう」	他者の意見を取り入れながら議論させ、議論したことを参考にし、自分の考えを再考させることができた。
第3時	○133 101回の記録を出した卒業生の体育会大縄跳びのVTR	□132 分析する発問 「自分たちの学級とたくさん跳んでいる先輩たちとの違いは？」	新しい学習内容である「技術」を習得させることができた。
		□133 統合する発問 「1年3組のまわし方、跳び方、リズム、並び方はどうだったか？」	自分たちのこれまで学習したことや経験したことと新しく学習した「体育理論」としての知識である「技術」を照らし合わせ、新しい学習内容である「戦術」を習得させることができた。
		□134 深化する発問 「フラッグフットボールにおける技術は何だろう？」「走るプレーのことを何という？」「パスの名前は？これまでやったことのある戦術は何？」	自分たちのこれまで経験したことと習得した「体育理論」としての知識を照らし合わせ、「技術」と「戦術」をより深く理解させ、「作戦」を習得させることができた。

【表6】

【表6】の効果があつた事柄について、段階のねらいに応じた手立てとして、つかむ教材を生かし、教材に触れることで思考・判断させ、学習指導内容へとつないでいく教材と、それぞれ教材に応じた発問が有効であつたと考える。その根拠を以下に述べる。

一つ目は、事後指導において「体育理論」としての知識が習得できているか分析した結果である。まず第1時の内容である運動やスポーツの必要性和多様な楽しみ方について、語群から選ばせる形で記述させた。【資料4】7つの項目すべて正解していた学級全体の割合は96.4%であつた。また抽出生徒は全員正解していた。

次に第3時の内容である、「技術」「戦術」「作戦」について記述させた確認シートからは、学級全体の正答率は、「技術」が82.1%、「戦術」が78.6%、「作戦」が85.7%であつた。抽出生徒についても生徒A、生徒Dは「技術」「戦術」「作戦」すべて正解することができていた。【資料5】これらのことから本検証学級の生徒は、ほぼ「体育理論」としての知識を習得することができていると言える。

【資料4】 生徒Aの確認シート

1 運動やスポーツは必要性であつたり多様な楽しみから生みだされてきました。次の表の()にあてはまる語句を語群より選び答えましょう。

必要性	多様な楽しみ		
(①) 増進	(③) に挑戦	(④) との競争	(⑤) との触れあい
(②) 向上	(⑥) との交流	(⑦) の表現	

語群

仲間	相手	体力	感情	自然	記録	健康
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
健康	体力	記録	相手	自然	仲間	感情

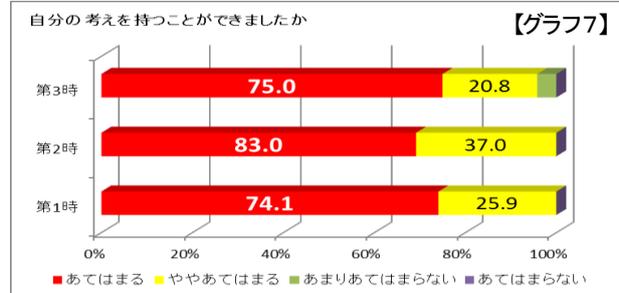
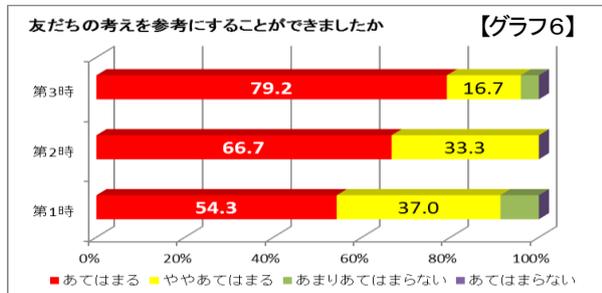
【資料5】 生徒Dの確認シート

3 次の①～③を何というでしょう。

① 運動やスポーツの課題を解決するための合理的な体の動かし方
 ② 競技など対戦相手との競争において、①を選択したり組み合わせたりすること
 ③ 相手のチームと戦うときに、試合を行う方針

①	②	③
技術	戦術	作戦

二つ目は、授業後の自己評価からである。「友だちの考えを参考にすることができたか」「自分の考えをもつことができたか」という質問に対して、第2時では、すべての生徒が、“あてはまる”“ややあてはまる”と回答している。その他の授業でも友だちの考えを参考に自分の考えをもつことができた生徒の割合は90%を超えている。【グラフ6・7】このことは、「体育理論」としての知識を習得させるために、他者の意見を取り入れながら議論させ、議論したことを参考にし、自分の考えを再考することができている結果と言える。



三つ目は、生徒の記述からである。ワークシートの感想からは、“スポーツはよく考えるとたくさん種類がありました。いろいろな必要性に気付く事ができました。”といった記述が見られた。【資料6】これは、つなぐ教材(○

【資料6】 生徒の感想

スポーツはよく考えるとたくさん種類がありました。いろいろな必要性に気付く事ができました。

113)を提示することで、生徒が経験してきた知っていることと初めて知る運動やスポーツの必要性や楽しさと照らし合わせることができた結果である。抽出の生徒も含め全員ワークシートをまとめることができおり【p19 資料1・2】、知っていることや知らないことを照らし合わせながら、ワークシートにまとめることで、運動やスポーツの必要性と多様な楽しさについて理解できた。

また、“このスポーツはこれ！！と思っていたものが、他の人の意見を聞いてみて、なるほど！！と思う部分がありました。”【資料7】と記述している。これは、友だちの意見を取り入れながら、自分の考えをもつことができている記述である。

【資料7】 生徒の感想

このスポーツはこれ！！と思っていたものが他の人の意見を聞いてみてなるほどと思う部分があった。

四つ目は、第1時の生徒の様相観察からである。自分たちが知っているスポーツの名称をあげさせ、【p19 写真5・6】統合する発問(□112)をし、カテゴリー化させた中で、生徒C・生徒D・生徒Eが活発に活動している様子があげられる。【p20 写真7・8】ここでは、発問によってこれまで経験してきた運動やスポーツの名前と、学習内容である様々な運動やスポーツの必要性と多様な楽しさに照らし合わせることができている。また、評価する発問(□113)をすることで、ほかのグループの考えとも交流することができている。さらに生徒Dは、グループとしての考えを2回発言し、【p20 写真12・13】生徒C・生徒Dは、自分たちの考えと他の班の考えを参考にしていたり、【p20 写真9・10】生徒Eは、自分たちの考えをまとめたりすることができていた。【p20 写真11】この様子から、グループの中で論議したり、ほかのグループの考えを交流したりし、最終的に自分の考えをもつことができています。

以上のことから、つかむ教材を生かし、教材に触れることで思考・判断させ、学習指導内容へとつないでいく教材を使用することと、それぞれ分類した発問をすることは、生徒にとってこれまで習得してきた知識や経験と、新しい「体育理論」の学習内容を照らし合わせたり、他者の意見を取り入れながら議論させ、議論したことを参考にし、自分の考えを再考させたりし、「体育理論」としての知識を習得させる上で有効な手立てであったと言える。

(3) 実感する段階

ねらい

「体育理論」としての知識を、より実感した、より納得した知識として自分のものとして価値付けさせる。また獲得した知識を実生活に生かそうとする態度を高めさせる。

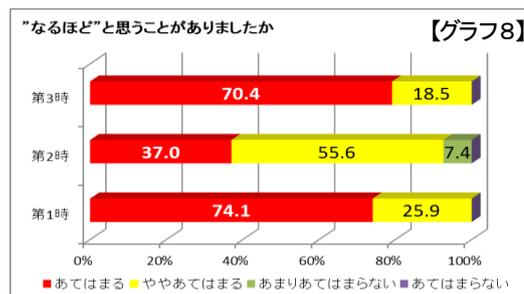
実感する段階におけるねらいに対する教材と発問の効果について

時間	広げる教材	発問	ねらいに対する効果
第1時	○114 バレーボールの歴史の話		「体育理論」としての知識を、より実感した、より納得した知識として自分のものとして価値付けさせることができた。
	○115 車いすテニス大会のVTR	□114 分析・統合する発問 「車いすテニス大会に参加している人たちはどんな必要性や楽しみがあるのだろうか？」	獲得した知識を実生活に生かそうとする態度を高めさせることができた。
第2時	○126 ワークシート	□125 統合する発問 「これから運動やスポーツのかかわり方について考えよう」	「体育理論」としての知識を、より実感した、より納得した知識として自分のものとして価値付けさせることができなかった。
			獲得した知識を実生活に生かそうとする態度を高めさせることができた。
第3時	○134 具体的な場面をイメージさせる写真	□135 評価する発問 「本時で学んだことを自分たちの生活に生かせることは？」	「体育理論」としての知識を、より実感した、より納得した知識として自分のものとして価値付けさせることができた。
			習得した「体育理論」としての知識を実生活に生かそうとする態度を高めさせることができた。

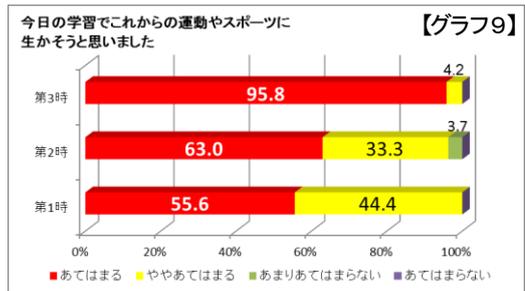
【表7】

【表7】の効果があった事柄について、段階のねらいに応じた手立てとして、つかむ・つなぐ教材に加えて、「体育理論」としての知識をより実感・納得させ、獲得した知識を実生活へと広げる教材と教材に応じた発問が有効であったと考える。その根拠を以下に述べる。

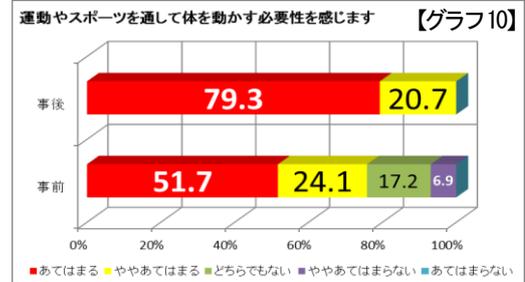
一つ目は、授業後の自己評価からである。「なるほどと思うことがありましたか」という問いに対して第1時、第3時では、全員が“あてはまる”“ややあてはまる”と回答している。【グラフ8】このことは、広げる教材を設定したことで、「体育理論」としての知識を生徒にとって身近な運動領域や一流選手の考え方に広げていったことで、より深く理解させることができたと言える。あわせ



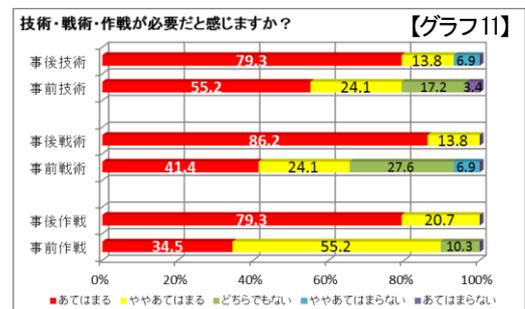
て、「今日の学習でこれからの運動やスポーツに生かそうと思いましたが」【グラフ 9】という問いに対し、すべての時間において 90%以上の生徒が“あてはまる”“ややあてはまる”と回答している。このことは獲得した知識を実生活に生かそうとしている結果である。



二つ目は、事前調査と事後調査の変容からである。第1時の内容で「運動やスポーツを通して体を動かす必要性を感じます」【グラフ 10】という問いに対し、事後調査では全員が“あてはまる”“ややあてはまる”と回答し、体を動かす必要性を感じている。このことは、運動やスポーツの必要性や多様な楽しみ方について知識を獲得することができている結果である。



また、第3時の学習内容で「技術・戦術・作戦が必要だと感じますか」【グラフ 11】という問いに対しどの項目も事前よりも数値が上がっている。このことは、体育会の大縄跳びを教材として、「体育理論」としての知識を習得させ、さらに授業で行っているフラッグフットボールを教材として「技術」「戦術」「作戦」が重要であることをより実感することができた結果である。



三つ目は、生徒の様子と記述からである。【表 8】は「体育理論」としての知識を習得している記述と、さらにそれを自分のものとして価値付けることができている記述を整理したものである。

	記入例
「体育理論」としての知識を習得している記述	〇〇 (学習内容) についてわかった。 〇〇 (学習内容) について知ることができました。【資料 8】
自分のものとして価値付けることができている記述	実感する段階での教材と発問から、〇〇 (学習内容) について (より深く、なるほど、改めて、やはり、びっくりした、) 知ることができました。【資料 9】

【表 8】 自分のものとして価値付けられた記入例

【資料 8】 「体育理論」としての知識を習得している生徒の記述例

今日は楽しかったです。
運動、スポーツにはいろんな楽しみ方があったなあと
思いました。

【資料 9】 自分のものとして価値付けることができている生徒の記述例

今日の授業でスポーツが生みだされたわけを
バレーを題にして、教えてくれてスポーツが生み
だされたわけがわかりました。

第1時では、広げる教材として、バレーボールの歴史について話をしたところ、生徒Cは教師の話を真剣に聞き、何度も反応していた。【p21 写真 14】 その結果自分が想像していたことを超える事実

驚きと同時に、スポーツの発展全般に対して思いをめぐらせており、習得した知識が自分のものとして価値付いている。同じく生徒Dの感想も同様である。【資料 10】これらは、運動やスポーツが様々な必要性や楽しみ方に発展してきたことをより実感したり、より納得したりすることができている記述である。

また第3時の記述では、いずれも学習したことを、部活動や体育の学習で生かそうとしていることが分かる。【資料 11】これらは、知識を獲得させ、評価する発問(□135)をすることで、獲得した知識を実生活に生かそうとしている記述と捉えられる。

しかしながら、第2時においては、自分のものとして価値付けさせるまでには至らなかった。【p30 グラフ8】では、“あてはまる”の数値が40%を下回っていることと、2名の生徒が“あまりあてはまらない”と回答している。また、統合する発問(□125)の結果、生徒Eは、“今日の授業で車イステニス大会とかいろいろな大会ではするとかみろとか支えるとかいろいろな人々がいるんだなと思いました。”という記述をした。【資料 12】これは、深める段階で習得した内容であり、価値付けられた知識とは言い難い。このようになった原因は、深める段階で、運動やスポーツの多様なかわり方についての知識を、そのまま生活に結び付けさせようとしたことが原因であると考えられる。より実感させる、より納得させるための教材をもう一つ設定する必要があった。具体的には「する」「みる」「支える」の視点が含まれた「体育理論」の学習内容とつながりのあるワールドカップやオリンピックなどの教材と発問を設定することで、自分のものとして価値付けさせることができたと考える。

以上のことから、「体育理論」としての知識を、より実感した、より納得した知識として自分のものとして価値付けさせる手立てとして第1時と第3時でバレーボールの歴史の話や運動領域と結び付ける写真を教材化することと、教材に応じた発問を工夫することは知識を獲得させ、獲得した知識を実生活に生かそうとする態度を高めさせる上で有効な手立てであったと考える。

また第2時の結果から、つなぐ・つかむ教材に加えて、「体育理論」としての知識をより実感・納得させ、獲得した知識を実生活へと広げる教材を設定することは、学習指導内容により迫って、自分のものとして価値付けていく上で、大変重要であると感じた。このことを2年生の教材設定へ生かしていった。

【資料10】 生徒Cと生徒Dの感想

テニスからバレーボールにつながっていると思いませんでした。

そい、健康増進ないが7つもあるとは、びっくりしました。

次の授業が楽しみです。

なるほど

スポーツはこんな風に発展して行くのかと思いました。

【資料11】 生徒Bとある生徒

今日習った事で「作戦」と剣道で使おうと思いました。

次の体育の授業でフットボールをするときこの授業を

思い出して参考にしていきたいと思えます。

【資料12】 生徒Eの感想

今日の授業で車イステニス大会とかいろいろな大会ではする

とかみろとか支えるとかいろいろな人々がいるんだなと思

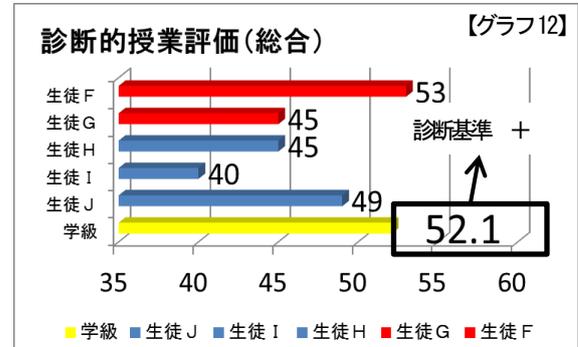
いました。

第2学年 実証単元 平成23年10月18日(火)～10月20日(木) 全3時間
 飯塚市立飯塚第二中学校 第2学年2組 32名(男子17名 女子15名)
 単元名「運動やスポーツが心身の発達に与える効果と安全」

6 事前調査

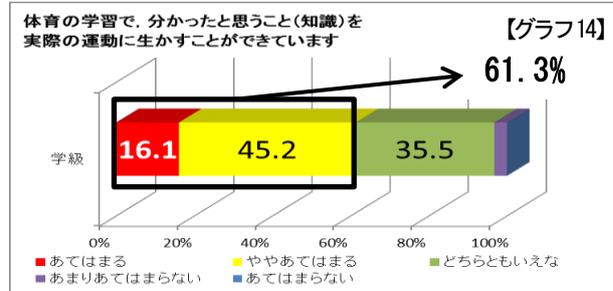
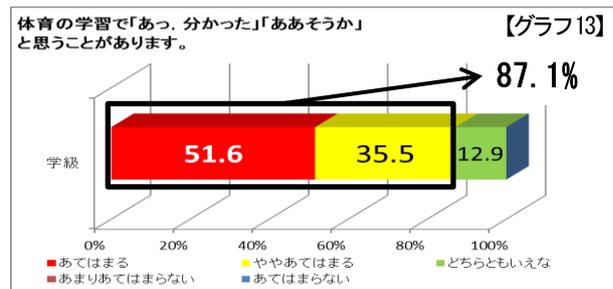
(1) 診断的授業評価

子どもの保健体育科授業についての学習課題を把握するために、授業評価尺度(2003.10.10『体育授業を観察評価する』)を用いた診断的授業表を行った。本研究は運動領域ではないが、「体育理論」で学習したことを運動領域に生かすため、実態を把握するために調査した。学級全体の総合評価の平均点は52.1点と中学校段階の診断基準+(47.45～60.00点)内に位置しており、かなり高い数値を示している。このことは、保健体育科の授業において、学ぶ意欲と、ルールを守ることができる割合が高い学級であることが分かった。【グラフ12】



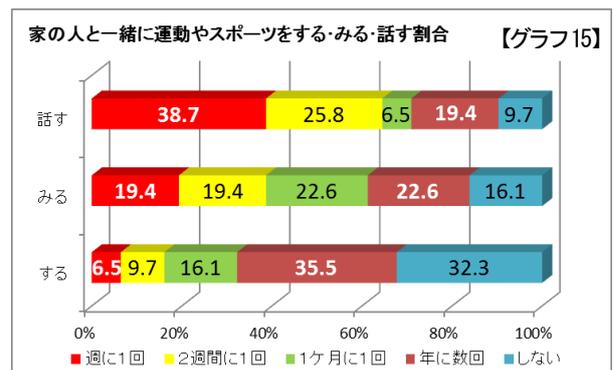
(2) 知識に関する意識調査

事前調査のアンケートで、「体育の学習で、『あつ、分かった』『ああ、そうか』と思うことがあります」という質問に対して、87.1%の生徒が、“あてはまる” “ややあてはまる”【グラフ13】と答えている。一方「体育の学習で、分かったと思うこと(知識)を実際の運動に生かすことができている」という質問に対して、“あてはまる” “ややあてはまる”と答えた生徒は61.3%【グラフ14】と、得られた知識が十分に生かされていないということが分かった。このことから、「体育理論」としての知識を獲得させ、実生活に生かそうとする態度の高まりへ広げる本研究を行うことは、運動領域においても知識を生かそうとする生徒を育てることに有効であると考えられる。



(3) スポーツと家庭とのかかわり方についての調査

事前調査のアンケートで、「家の人と一緒に運動やスポーツをする・みる・話す」について質問したところ、本クラスは運動部活動に65%所属していることもあり、「話す」頻度は高いが、「する」「みる」の項目については、家庭の中であまりかかわることができていない実態がある。【グラフ15】



これらの調査結果をもとに、次のような【表9】に示すような生徒を抽出した。

	診断的授業評価	知識定着	知識活用	家庭でする	家庭でみる	家庭で話す
生徒F	診断基準+ 学級平均より高い	○	△	しない	年に数回	年に数回
生徒G	診断基準0 学級平均より低い	△	▼	年に数回	しない	年に数回
生徒H	診断基準0 学級平均より低い	—	—	しない	しない	年に数回
生徒I	診断基準- 学級平均より低い	—	—	しない	年に数回	しない
生徒J	診断基準0 学級平均より低い	△	—	しない	年に数回	しない

※ ○:あてはまる △:ややあてはまる —:どちらともいえない ▼:あまりあてはまらない ×:まったくあてはまらない

【表9】 2年生抽出生徒

事前調査における運動やスポーツへのこれまでのかかわりの自由作文の具体的な記述については以下のとおりである。

生徒F・生徒Gについては、運動やスポーツに興味・関心が高いが、家庭とのかかわりが低い群として抽出した。

【生徒F】

16 あなた自身がこれまで、運動やスポーツにどのように関わってきたか文章にまとめてみましょう。

小学校4年生くらいから、クラブ活動というものができるようになって、その時やスポーツとかが私の趣味だと感じます。屋内運動クラブにはいて、私はバスケボールはバスケスポーツが好きになりました。

その後中学生になって、バスケではないですが、卓球部に入部しました。

部活に入ることで、運動量が増えたと思います。

【生徒G】

16 あなた自身がこれまで、運動やスポーツにどのように関わってきたか文章にまとめてみましょう。

中学校に入るまでは、体育だけが関わってないけど、中学校に入って部活を始めたから、今は部活で運動に関わっています。

生徒H・生徒I・生徒Jについては、運動やスポーツに対して興味・関心が著しく低く、家庭とのかかわりも低い群として抽出した。

【生徒H】

16 あなた自身がこれまで、運動やスポーツにどのように関わってきたか文章にまとめてみましょう。

あまり関心ありません。

【生徒I】

16 あなた自身がこれまで、運動やスポーツにどのように関わってきたか文章にまとめてみましょう。

関わっていない

【生徒J】

16 あなた自身がこれまで、運動やスポーツにどのように関わってきたか文章にまとめてみましょう。

ほとんど関わっていません。

たまに1人で何かやってみようかなと簡単に（あまりルールは作らない）やってみたりはしますが...

そのスポーツと言ったら...部活も美術部なので運動はしてないです...

あとスポーツのテレビも見るんですけど...

7 第1時 「運動やスポーツが心身に及ぼす効果」 10月18日(火) 第3校時

(1) 目指す生徒像

<p>ア 運動やスポーツが心身に及ぼす効果について、言ったり書き出したりするとともに、自分のものとして価値付けすることができる。</p> <p>イ 運動やスポーツが心身に及ぼす効果について、出された意見や集めた情報を分析、整理し、自分なりの考えを再考することができる。</p> <p>ウ 運動やスポーツが心身に及ぼす効果について、ワークシートをまとめたり、意見を交換したりする活動を通して、学習に積極的に取り組むことができる。また自分のものとして価値付けられた知識を自己の日常生活と結び付けようとしている。</p>

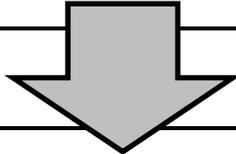
(2) 授業展開

段階	学習内容 (◎) 学習活動 (◆) 教師の支援 (◇)	研究に関わる手立て		
		○教材	☆段階のねらい	□発問
出会う	<p>◆2枚の写真から感情を読み取る。</p> <p>◆ めあての確認</p> <p>運動やスポーツが心身に及ぼす効果を知り、私たちの生活と結びつけよう</p> <p>◆授業の流れを確認する。</p>	○211 つかむ教材	☆これまで習得してきた知識や経験を想起させ、授業に対する関心・意欲を高めていく。	□211 引き出す発問
	○212 つかむ教材	☆これから学ぶ学習内容の見通しをもたせる。		
深める	<p>◎運動やスポーツの体への効果と心への効果について知る。</p> <p>◆ブレインストーミングする。</p> <p>◇運動やスポーツの実践を通してこれまで経験してきたことや感じてきたことをあげさせる。</p> <p>◇○○をしてどうなったという記入の仕方を確認させる。 (例) バレーボールをしてジャンプ力が上がった。 体育会の大縄跳びで達成感を味わった。</p> <p>◆カテゴリー化する。</p> <p>◇運動やスポーツの実践を通してこれまで経験してきたことや感じてきたことを各班の思いで分類させる。</p> <p>◇どうなったという部分で共通するものを集めて、タイトルを考えさせる。</p> <p>◆発表する。</p> <p>◇各班1つ経験と分類したことを発表させる。</p> <p>◆「体育理論」の知識を習得する。</p> <p>◇ワークシートに記入させ、理解させる。</p>	○213 つなぐ教材	<p>☆これまで習得してきた知識や経験をもとに、運動やスポーツを行って効果があったことを思い出させる。</p> <p>☆他者の意見を取り入れながら議論させ、議論したことを参考にし、自分の考えを再考させる。</p>	<p>□212 統合する発問</p> <p>□213 深化する発問</p>
実感する	<p>◆学習のまとめをする。</p> <p>◇うつ病の方の運動療法、魁皇の引退会見を参考に心と体への効果を再確認させる。</p> <p>◆自己評価する。</p>	○214 広げる教材	<p>☆「体育理論」としての知識を、より実感した、より納得した知識として自分のものとして価値付けさせる。</p> <p>☆獲得した知識を実生活に生かそうとする態度を高めさせる。</p>	<p>□214 分析する発問</p> <p>□215 評価する発問</p>

出会う段階までの板書

めあて

運動やスポーツが心身に及ぼす効果を知り、
私たちの生活と結びつけよう



深める段階までの板書

めあて

運動やスポーツが心身に及ぼす効果を知り、
私たちの生活と結びつけよう



身体的効果→体への効果

身体発達

体力の向上

運動技能の向上

身体機能の向上

肥満予防

食生活の改善

心理的効果→心への効果

達成感

コミュニケーション

自信の獲得

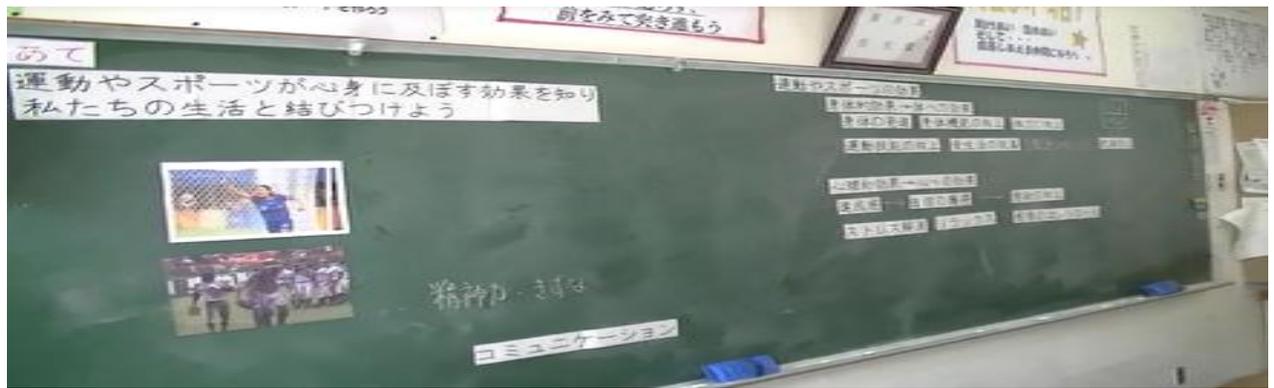
意欲の向上

ストレス解消

リラックス



実感する段階の板書



(1) 目指す生徒像

ア 運動やスポーツが社会性に及ぼす効果について、言ったり書き出したりするとともに、自分のものとして価値付けることができる。
 イ 運動やスポーツが社会性に及ぼす効果について、出された意見や集めた情報を分析、整理し、自分なりの考えを再考することができる。
 ウ 運動やスポーツが社会性に及ぼす効果について、ワークシートをまとめたり、意見を交換したりする活動を通して、学習に積極的に取り組むことができる。また自分のものとして価値付けられた知識を自己の日常生活と結び付けようとしている。

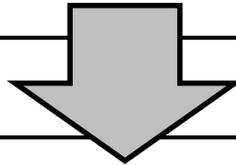
(2) 授業展開

段階	学習内容 (◎) 学習活動 (◆) 教師の支援 (◇)	研究に関わる手立て		
		○教材	☆段階のねらい	□発問
出会う	◆授業の流れを確認する。 ◆体育会を想起する。 ◆社会性を想起する。 ◆めあての確認	○221 つかむ教材 ○222 つかむ教材	☆これから学ぶ学習内容の見通しをもたせる。 ☆これまで習得してきた知識や経験を想起させ、授業に対する関心・意欲を高めさせる。	□221 引き出す発問
	運動やスポーツが社会性の発達に及ぼす効果を知り、私たちの生活と結びつけよう			
深める	◎運動やスポーツを行うことを通して社会性が発達していくことを知る。 ◆VTRを視聴する。 ◇昨年の3年3組の大縄跳びのVTRを視聴させる。 ◇101回跳べた理由を考えながら視聴させる。 ◆ブレインストーミングする。 ◇101回跳んだ理由を自分たちの跳び方と比べながら、付箋にたくさん挙げさせる。 ◆カテゴリー化する。 ◇挙げた理由を技術面と技術面以外に分類させる。 ◆発表する。 ◇技術面以外に分類した理由をほかの班と交流させる。 ◆「体育理論」についての知識を習得する。 ◇技術面以外に分類した理由と照らし合わせながら学習内容をワークシートにまとめさせる。	○223 つなぐ教材	☆101回の記録を出した3年3組の大縄跳びを見て、自分たちとの跳び方の違いについて照らし合わせる。 ☆他者の意見を取り入れながら議論させ、議論したことを参考にし、自分の考えを再考させる。	□222 統合する発問 □223 評価する発問
	◆ザックローニ監督の写真と談話について話を聞く。 ◆なでしこジャパン佐々木監督の世界に勝つための11の心得について話を聞く。	○224 広げる教材 ○225 広げる教材	☆「体育理論」としての知識を、より実感した、より納得した知識として自分のものとして価値付けさせる。また獲得した知識を実生活に生かそうとする態度を高めさせる。	□224 分析する発問 □225 深化する発問

出会う段階までの板書

めあて

運動やスポーツが社会性に及ぼす効果を知り、
私たちの生活と結びつけよう



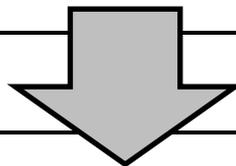
深める段階までの板書

めあて

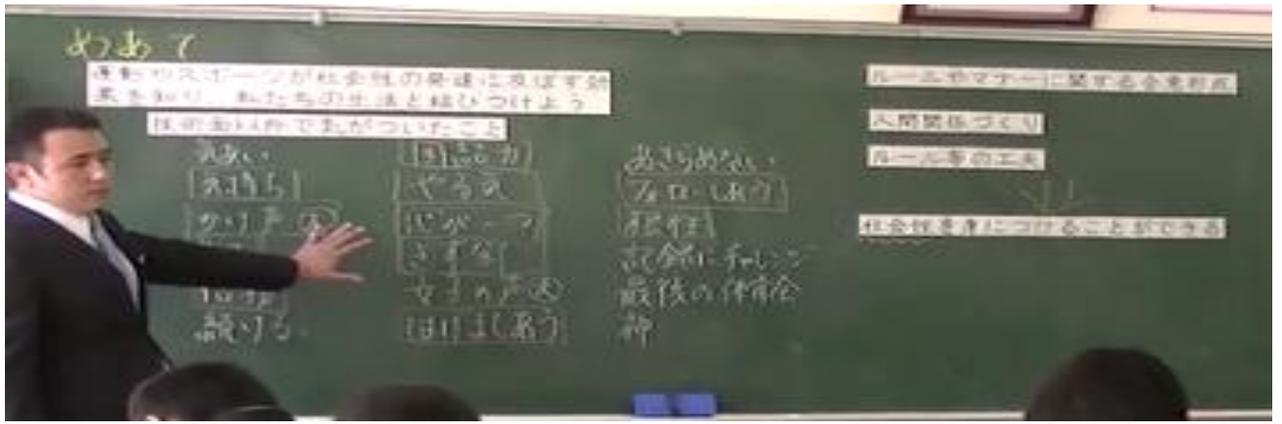
運動やスポーツが社会性に及ぼす効果を知り、私たちの
生活と結びつけよう

技術面以外できがったこと

気あい	団結	あきらめない
気持ち	やる気	フォローしあう
かけ声	心が一つ	根性
信頼	きずな	記録にチャレンジ
続ける	女子のかけ声	最後の体育会
	はげましあう	神



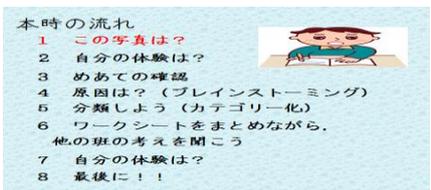
実感する段階の板書



(1) 目指す生徒像

ア 安全な運動やスポーツの行い方について、言ったり書き出したりするとともに、自分のものとして価値付けることができる。
 イ 安全な運動やスポーツの行い方について、出された意見や集めた情報を分析、整理し、自分なりの考えを再考することができる。
 ウ 安全な運動やスポーツの行い方について、ワークシートをまとめたり、意見を交換したりする活動を通して、学習に積極的に取り組むことができる。また自分のものとして価値付けられた知識を自己の日常生活と結び付けようとしている。

(2) 授業展開

学習内容 (◎) 学習活動 (◆) 教師の支援 (◇) 教材 (○) 発問 (□)	子どもの姿 (生徒F・生徒G・生徒H・生徒I・生徒Jの反応)
<p>出会う段階 これから学ぶ学習内容の見通しをもたせたり、これまで習得してきた知識や経験を想起させたりして、授業に対する関心・意欲を高めていく。</p>	
<p>◆授業の流れを確認する。 ○231 授業の流れを確認する教材 (つかも教材)</p> 	 <p>テレビに注目し、これから学ぶ学習内容の確認をしている。</p> <p>【写真15】 授業の流れを確認する生徒</p>
<p>◆一流選手がけがをした例を挙げ、運動やスポーツにおけるけがについてイメージする。 ○232 元大関魁皇、丸山選手、ジミー・ロリンズ選手の写真 (つかも教材)</p>   	<p>T: この写真誰かわかる? C11: 白鵬 魁皇 T: 膝のテーピングから痛々しさが変わるかな? T: 次の写真は? C12: 返事なし T: なでしこの丸山選手です。膝の前十字靭帯を切って帰国した時の様子です。 T: 次はちょっと衝撃的な写真ですよ C13: (全員) わあー T: 一流選手は全力でやっている中、不慮の事故にあっているわけだね。自分自身を振り返ってみよう。運動やスポーツをしていてけがをした経験ありませんか? C14: あります。 生徒F: あるある。(つぶやき) 生徒H: 不安な表情をする。(反応)</p>  <p>【写真16】 けがについてイメージを高める生徒たち</p>
<p>◆運動やスポーツをしていてけがをした例を挙げる。 □231 皆さんが運動やスポーツをしていてけがをした例を考えよう (引き出す発問)</p>	<p>T: ○○をしてどうなった。という形で、○○は運動やスポーツの名前、どうなったには、症状を記入しましょう。</p> <p>T: けががなかった人もいるかも知れないね。心配なくていいですよ。</p>  <p>【写真17】 運動やスポーツの経験がないためけがについて記入できない生徒H</p>  <p>【写真18】 運動やスポーツの経験がないためけがについて記入できない生徒I</p>

運動やスポーツをしていて、けがをした経験を思い出して??

〇〇をしてどうなった

〇〇には運動やスポーツの名前
“どうなった”はけがの症状

例

バレーボールをして突き指した
マット運動をして首をひねった
など

◇〇〇をしていてどうなった。という形でワークシートに記入させる

◆めあての確認

安全な運動やスポーツの行い方を知り、私たちの生活と結びつけよう

◇ワークシートにめあてを記入させる。

【資料13】 生徒F・G・Jのワークシート

〇〇をしてどうなった

卓球をして ラケットが 足にあたった。(打びく...)

〇〇をしてどうなった

卓球をして 手首を ひねった。

〇〇をしてどうなった

つら、びつぽ、ボール、ボール投げをして、ボールが 顔にゴス、と当たった。

生徒F、生徒G、生徒Jは自分がけがをした経験を書くことができています。

深める段階

これまで習得してきた知識や経験と、新しい「体育理論」の学習内容を照らし合わせたり、他者の意見を取り入れながら議論させ、議論したことを参考にし、自分の考えを再考させたりし、「体育理論」としての知識を習得させる。

◎安全な運動やスポーツの行い方について知る。

◆教師の体験に基づいたけがの事例を確認する。

〇233 けがについての事例
(つなく教材)

事例

私はバレーボールの大会に出場しました。大会前日、私は身長が174cmしかなくジャンプ力をつけたかったので、腕立て伏せを300回してめちゃくちゃ頑張って筋力アップを図りました。大会当日、肩が痛かったけれどエースとしての意地で、試合では思い切りスパイクを打ちました。その日は気温35℃の中でしたが、そんなにのども乾いていなかったため、水分は補給せず試合に出場したため、多少動きが悪く、汗で床がぬれていたこともあり、ねんざしてしまいました。たいしたことはないと思いそのまま試合を続けましたが、そのうち立てなくなり救急車で運ばれました。

◇班に1枚資料を配布し、TVにもけが事例を映し確認させる。

◆ブレインストーミングする。

□232 事例について、けがをした理由を考えよう。(分析する発問)

◇〇〇だから、〇〇だったからという形で書き出させる。

◆カテゴリー化する。

□233 事例で上げた怪我の理由を次の項目に結び付けよう (深化する発問)

特性や目的にあった運動の選択
発達段階に応じた計画
体調、施設、用具の安全確認
準備運動・整理運動
適切な休憩・水分補給

T: けがを経験したことない人もいますので、ある人のけがの事例についてみんなで資料を読んでみよう。



【写真19】 けがの事例について資料で確認する生徒IとTVで確認する生徒F



【写真20】 けがの事例についてTVで確認する生徒H

T: この事例の中にけがの症状が2つあります。1つは“肩が痛かった” もう一つは“ねんざした” という症状がありましたね。この事例について、けがをした理由を考えてみましょう。書いてあることから読み取ってもいいし、想像でも構いませんよ

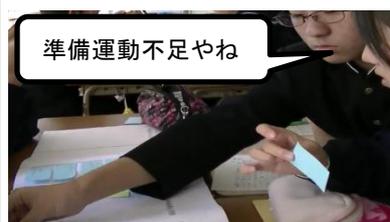


【写真21】 資料からけがの原因を分析する生徒I



【写真22】 資料からけがの原因を分析する生徒J

T: 1つ目は特性や目的にあった運動の選択、2つ目は発達段階に応じた計画、3つ目は体調、施設、用具の安全確認、4つ目は準備運動・整理運動、5つ目は適切な休憩・水分補給の5つにあげた項目とけがの理由を結び付けよう。



【写真23】 友だちの意見を参考にしている生徒H



【写真24】 友だちに確認して付箋をはっている生徒I

◆班で交流したことをほかの班で紹介する。
◇分けたグループ名と理由を発表させる。

◆ワークシートに安全に運動やスポーツを行うための重要事項をまとめる。
◇仲間の安全についても理解させる。

◆最初にあげた自分自身のけがについて重要事項から理由を振り返る。
□234 自分のけがの理由は何だろう
(統合する発問)

生徒H：適切な休憩・水分補給で自己管理ができていなかった。
T：いいところに気が付いていますよ。
生徒F：特性や目的にあった運動の選択で、がんばりすぎた。
T：意地をはってしまったからですね。

自己管理ができていない

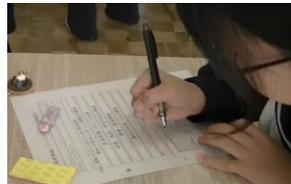


【写真25】 自分たちの班の考えを紹介する生徒H

T：ブレインストーミングでは出てこなかった項目ですが、仲間の安全も運動やスポーツを行うための重要事項としてあげておきましょう。



【写真26】 ワークシートをまとめる生徒たち



原因
特性や目的にあつた運動をしていない? (*不注意でも起きるが)

【写真27】 生徒Fが自分のけがの理由を振り返る様子とその記述



原因
体調確認・眼の眩の確認がなかった場所での自分自身を振り返ろう!!

【写真28】 生徒Iが自分のけがの理由を振り返る様子とその記述

実感する段階

「体育理論」としての知識を、より実感した、より納得した知識として自分のものとして価値付けさせる。また獲得した知識を実生活に生かそうとする態度を高めさせる。

◆授業の振り返りを行う

○234 体育及びスポーツに関する国際憲章 (広げる教材)

◇体育及びスポーツに関する国際憲章、スポーツ基本法の条文の内容と学習した内容が一致する部分があるので紹介し、すべての人に権利と義務が保障されていることを知らせる。

体育およびスポーツに関する国際憲章
1978年11月21日 ユネスコ総会 採択

本日 あらゆる段階の政府、公当局、学校及び適当な私的機関は、協力し、ともに計画して、体育・スポーツの施設、設備、用具を提供し、最適な条件で利用できるようにする義務がある。

昨日 体育・スポーツは社会関係を重かにし、スポーツだけでなく社会生活にとっても欠くことのできないフェアプレーを促進させる。

社会性

一昨日 体育・スポーツを通して肉体的、知的、道徳的能力を促進させることを保障されなければならない

日本では!?

平成23年7月27日公布
平成23年8月24日施行



スポーツ基本法

新聞やインターネットで調べてみよう

T：体育及びスポーツに関する国際憲章を読み上げる。
T：本日勉強した安全な運動やスポーツの行い方に関する条文です。次は昨日勉強した社会性に関する条文です。一番下は、一昨日勉強した心と体に関する条文です。これは1978年ユネスコ総会で採択されたもので、世界中の人々に運動やスポーツを行う権利と義務が書かれているものなんです。では、日本ではどうでしょう。実は、今年23年7月27日に公布され、8月24日に施行されたものがあるのです。ここ最近の出来事ですね。ユネスコで採択されたものと同じような約束事がスポーツ基本法として制定されました。これまで学習してきたことは、国際的、国内的においても権利として保障されていて、とても重要なものです。内容は高校生になって学習します。どんなものか知りたい人はインターネット等で確認してみてください。

日本にもあるんだあ・・・

社会関係って昨日勉強せんかった!?



【写真29】 体育及びスポーツに関する国際憲章とスポーツ基本法について、キーワードを確認する生徒H、生徒I、生徒

〇235 教師の体験談

(広げる教材)

秋を見つけよう



運動不足だし、秋を見つけながら散歩しよう！！
飯塚市の森
篠栗寺城址
秋桜(こすもす)
白石から1152歩地点

秋を見つけよう



実りの秋ですね
稲刈りが終わっていました
飯塚市大日寺
八木山のふもと
白石から7218歩地点

展望台に登ってリラックスするか



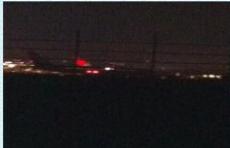
八木山峠登ってみるか！！
気持ちいいなあ
飯塚市八木山展望台
飯塚市第一展望台
八木山峠
白石から14098歩 地点

チャレンジするか



八木山峠越えてみるか！！
きつくなったら歩くのを止めてJRでかえればいいや
篠栗町城戸 南蔵院
深瀬蔵(ねぼんぞう)
白石から23621歩 地点

意欲がわいてきたぞお！！



いけるところまでいってみよう！！
産される区
福岡空港
福岡空港
白石から41890歩 地点
6時間33分 32.1km
1895.6kcal消費

次の日



福岡県体育研究所にて疲れがたまることなく、ストレスも解消され、気持ちよく仕事をする事ができました。

先生が感じたこと！！
汗をたくさんかいた(体への効果) 1時間目
体重が減った4kg↓(体への効果) 1時間目
達成感を味わった(心への効果) 1時間目
意欲が向上した(心への効果) 1時間目
リラックスした(心への効果) 1時間目
リフレッシュした(心への効果) 1時間目
きつくなったら止めよう(ルール工夫) 2時間目
ゆっくりストレッチ(準備運動・整理運動) 本日
きつくなったら止めよう(体調・安全の確認) 本日
のどかわいたなあ(適切な休憩・水分補給) 本日
反省すること(計画的ではなかった) 本日

◆自分自身を振り返る。
□235 これから運動やスポーツを行う際に、自分ができそうなことはないだろうか？(評価する発問)
◇ワークシートに記入させる。

T: 先週の日曜日の話です。二中で仕事をしていました。なかなか仕事ははかどらなかったので運動しようと散歩に出かけることにしました。最初は秋を見つけようという気持ちでスタートしました。するとだんだん気分が乗ってきて、八木山展望台に登ってみようと思いました。飯塚市が一望でき大変リラックスできました。その後”チャレンジするか”という気持ちになり、なんと八木山峠を越えてしまいました。篠栗町にある南蔵院の涅槃像です。

C15: はあーまじで・・・
T: きつくなったら JR で帰ればいいやと思っていました。家から23521歩歩きました。こうなったら行けるところまで行ってみようと思いなんと空港まで歩きました。

C16: わあーすごい・・・
T: 飛行機みて癒されてきました。家から41890歩、時間にして6時間33分、距離にして32.1Km歩きました。消費カロリーが1895.6kcalでした。次の日、疲れがたまることなく気持ちよく仕事することができました。ここで先生が感じたことですが、汗をたくさんかくことができました。4kg体重が減りました。これは1時間目に学習した体への効果ですね。肥満防止につながったわけです。また、達成感を味わうことができました。心への効果ですね。秋を見つけようと思って散歩しただのに、意欲が向上していますよね。リラックスすることもできました。リフレッシュすることもできました。ルール工夫も行いました。きつくなったらいつでもやめてJRで帰宅しようと思っていました。これは2時間目学習した内容ですね。それから家に帰ってゆっくりストレッチをしました。お風呂に入って体のケアを行いました。これ今日学習した内容ですよ。安全な運動の行い方で、準備運動・整理運動をきちんとしました。おかげで次の日筋肉痛になっていませんでした。体調・安全の確認をしながら歩きました。水分補給もしっかり行いましたよ。一つ反省するとするならば、計画的ではなかったということですね。

T: このように国際憲章と先生の体験談から2年生で学習する体育理論の内容を振り返ることができたのではないかと思います。



感想 (今日の授業を受けて感じたこと、疑問に思ったことを書いてください。)
今日の授業を受けて、「計画的に運動する」ということが自分に欠けているなと思いました。これから運動するときに6つのことを心がけるようにします。

【写真30】 生徒Aが自分でできそうなことを考えている様子とその記述



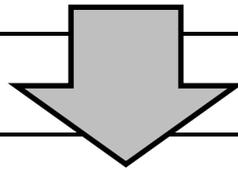
今日の授業で、私は散歩をしようと思った。(記述)
最近、休みの日(休日)に運動をしているので、その内容を思い出して...

【写真31】 生徒Jが自分でできそうなことを考えている様子とその記述

出会う段階までの板書計画

めあて

安全な運動やスポーツの行い方を知り、
私たちの生活と結びつけよう

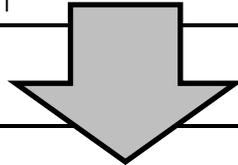


深める段階までの板書

めあて

安全な運動やスポーツの行い方を知り、
私たちの生活と結びつけよう

特性や目的にあった運動の選択	発達の段階に応じた計画	体調 施設・用具の安全確認	準備 整理運動	適切な休憩・水分補給
	一部（肩）を鍛えた	体が痛いことを気にしていない 床がぬれていた		自己管理できていない



実感する段階までの板書



10 第2学年考察

(1) 出会う段階

ねらい

これから学ぶ学習内容の見通しをもたせたり、これまで習得してきた知識や経験を想起させたりして、授業に対する関心・意欲を高めていく。

出会う段階におけるねらいに対する教材と発問の効果について

時間	つかむ教材	引き出し発問	ねらいに対する効果
第1時	○211 なでしこジャパン, K高校引退の 写真	□211 「この写真を見てどんな感情をも っているでしょう」	これまで習得してきた知識や経験を 想起させることができた。
	○212 授業の流れを確認するパワーポ イント		これから学ぶ学習の見通しをもた せることができた。
第2時	○221 授業の流れを確認するパワーポ イント	□221 「天気はどうだったでしょう」 「何回跳んだか覚えていますか」	これから学ぶ学習の見通しをもた せることができた。
	○222 体育会大縄跳びの写真		これまで習得してきた知識や経験を 想起させることができた。
	○222 社会性を確認する保健の教科書		□221 「『社会性』覚えているかな？」
第3時	○231 授業の流れを確認するパワーポ イント	□231 「みなさんが運動やスポーツをし ていて、けがをした例を考えよう」	これから学ぶ学習の見通しをもた せることができた。
	○232 大関魁皇, 丸山選手, ジミー・ ロリンズ選手のけがの場面をイ メージさせる写真		これまで習得してきた知識や経験を 想起させることができた。

【表 10】

【表 10】の効果があった事柄について、段階のねらいに応じた手立てとして、学習していくきっかけや、学習内容のイメージをつかませる教材を提示し、学習内容について興味・関心や疑問をもたせる発問が有効であったと考える。その根拠を以下に述べる。

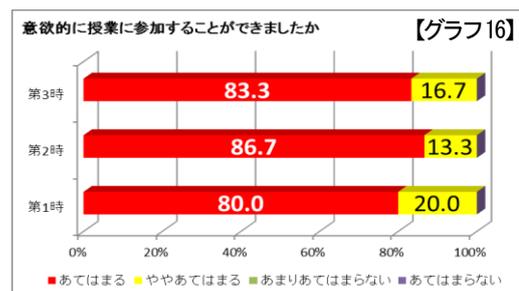
一つ目は、第3時の様相観察と記述からである。一流選手のけがをしている状態の写真を提示することで、けがについてのイメージをわかせた。特にジミー・ロリンズのまさにボールが顔面に当たろうとする場面の写真を提示した時の反応は大きかった。【p39 C13 写真 16】その後、自分たち自身のけがを想起させる発問したところ、生徒Fは“あるある”と返答していたので想起することができていた。【p39 生徒Fのつぶやき】また、生徒Hは運動やスポーツでけがをした経験がないため、不安な表情をしていた。【p39 生徒Hの反応】ワークシートに自分のけがについて記入させた際、運動やスポーツをしていてけがをした経験のある生徒F・生徒G・生徒Jは、ワークシートに記入することができていた。【p40 資料 13】同様にクラス全体のワークシートからも、ほぼ全員何らかの記述が見られた。記述することができなかった生徒【p39 写真 17・18】については、教師からの声かけをするとともに生徒の状況を把握し、次の段階につなげることができた。

二つ目は、第2時の生徒の様子である。学習内容に関係する社会性については、第1学年の保健の授業で既習している。しかし、はじめはほとんどの生徒が社会性について想起することができなかつ

た。そこで、「社会性」について想起させるため、保健の教科書を使って、一年次に学習した内容を振り返った。その後の『『社会性』思い出したかな?』と発問すると全員想起することができていた。このことは、保健の教科書を使用することで、既習している内容を改めて確認し、想起することができた場面である。【写真 32】



三つ目は、授業後の自己評価からである。「意欲的に授業に参加することができましたか」という質問に対し、すべての生徒が“あてはまる”“ややあてはまる”と回答しており、意欲的に授業に参加することができている。【グラフ 16】このことは、1時間の授業を通して、様々な学習活動を行った結果であるが、出会う段階において、教材と引き出す発問を手立てとし、授業に対する見通しをもたせたり、これまで習得してきた知識や経験を想起させたりすることで、授業に対する関心・意欲を高めたことが一つの要因であると考えられる。



以上のことから学習していくきっかけや、学習内容のイメージをつかませる教材を使用すること、疑問や興味をもたせるような発問をすることは、生徒にとって、これまでの授業やメディアを通して習得してきた知識や実際の生活の中などで経験したことを想起させ、授業に対する関心・意欲を高める上で有効な手立てであったと考える。

(2) 深める段階

ねらい

これまで習得してきた知識や経験と、新しい「体育理論」の学習内容を照らし合わせたり、他者の意見を取り入れながら議論させ、議論したことを参考にし、自分の考えを再考させたりし、「体育理論」としての知識を習得させる。

深める段階におけるねらいに対する教材と発問の効果について

時間	つなぐ教材	発問	ねらいに対する結果
第1時	○213 学習活動の行い方と手順を示したパワーポイント	□212 統合する発問 「これまでみなさんが運動やスポーツ通して経験したことや感じたことを思い出してみましよう」	これまで習得してきた知識や経験をもとに、運動やスポーツを行って効果があったことを照らし合わせることができた。
		□213 深化する発問 「どうなったという部分で共通するものは何だろう」	他者の意見を取り入れながら議論させ、議論したことを参考にし、自分の考えを再考させることができた。
第2時	○223 昨年の3年3組の大縄跳びのVTR	□222 統合する発問 「101回跳べた理由は何だろう」	101回の記録を出した3年3組の大縄跳びを見て、自分たちとの跳び方の違いについて照らし合わせることができた。
		□223 評価する発問 「他の班はどんな考えをもっているでしょう?」	他者の意見を取り入れながら議論させ、議論したことを参考にし、自分の考えを再考させることができた。

第3時	○233 けがについての事例 (教師の体験談)	□232 分析する発問 「事例についてけがをした理由を考えよう」	教師の体験談を例にけがの理由について資料を分析させることができた。
		□233 深化する発問 「事例であげたけがの理由を安全に運動やスポーツを行うための重要事項に結び付けよう」	他者の意見を取り入れながら議論させ、議論したことを参考にし、自分の考えを再考させることができた。
		□234 統合する発問 「自分のけがの理由は何だろう」	これまで習得してきた知識や経験と、新しい「体育理論」の学習内容を照らし合わせることもできた。

【表 11】

【表 11】の効果があつた事柄について、段階のねらいに応じた手立てとして、つかむ教材を生かし、教材に触れることで思考・判断させ、学習指導内容へとつないでいく教材と、教材に応じた発問が有効であつたと考える。その根拠を以下に述べる。

一つ目は、事後指導で行つた学習内容の習得状況に関する分析である。まず第1時の内容である「運動やスポーツが心身に及ぼす効果」について、体への効果と心への効果を記述させた。【資料 14】体への効果は75%、心への効果は83%の生徒が2つ以上記入することができていた。次に第2時の内容である「運動やスポーツが社会性に及ぼす効果」について、語群から選ばれる形で記述させ、4つの項目すべて正解していた学級全体の割合は86.7%であつた。抽出の生徒は全員正解していた。最後に第3時の内容である「安全な運動やスポーツの行うための重要事項」を3つ記述させた。83%の生徒が重要事項を3つすべて記入することができていた。【資料 15】このことから本検証学級は、かなり高い割合で「体育理論」としての知識を習得することができていたことがわかつた。

【資料 14】 生徒Gの確認シート

1 運動やスポーツは、心身両面への効果が期待できますが、体への効果と心への効果を書き出してみよう

体への効果
体ねup、ひきん防止、

心への効果
リラックス、ストレス解消、楽しめる、いよの向上、

【資料 15】 生徒Iの確認シート

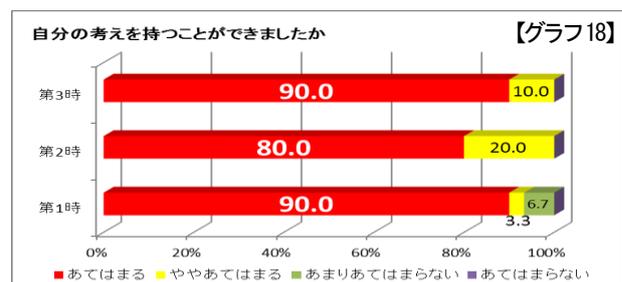
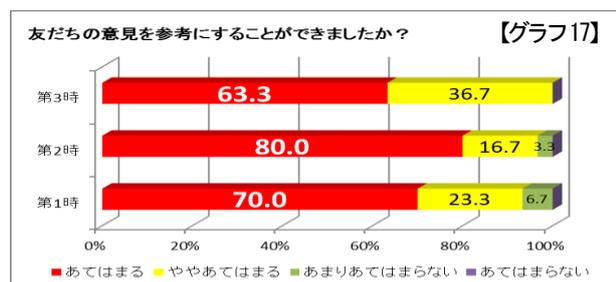
3 安全に運動やスポーツを行うための重要事項を3つ書いてみよう

体調、新化の理解、

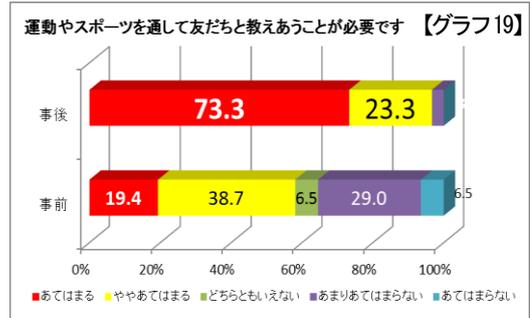
準備、整理運動、

作問の意、

二つ目は、授業後の自己評価からである。「友だちの考えを参考にすることができたか」「自分の考えをもつことができたか」という質問に対して、すべての時間において90%以上の生徒が“あてはまる”“ややあてはまる”と回答している。【グラフ 17・18】このことは、ほとんどの生徒が他者の意見を参考にし、自分の考えをもつことができていけると言える。これらのことから、他者の意見を取り入れながら議論させ、議論したことを参考にし、自分の考えを再考させたことは、「体育理論」の知識を習得させることにつなげることができたと言える。



また事前調査と事後調査から「運動やスポーツを通して友だちと教えあうことが必要です。」という質問に対し事後調査では、ほとんどの生徒が“あてはまる”と回答し大幅に数値の変容を見ることができた。【グラフ 19】このことは、第2時の「運動やスポーツが社会性に及ぼす効果」についての知識の習得が影響したと考えられる。



三つ目に第2時の生徒の感想からである。提示された教材から、これまでの自分自身の経験を振り返って、より学習内容を実感する記述が見られた。【資料 16・17】

【資料16】 生徒の感想

感想 (今日の授業を受けて感じたこと、疑問に思ったことを書いてください。)

今日の授業を受けて、部活で、みんなを応援したり、かけ声も大きくなり、チームががんばって来て、大会で、おもしろい時がありました。自分は、やはり社会性で、おもしろいと思います。

【資料17】 生徒の感想

感想 (今日の授業を受けて感じたこと、疑問に思ったことを書いてください。)

体育会でも、友達同士、声をかけ合ったり、おもしろい、一つになれたの、3枚の賞状を獲得できたと思います。@今度の文化祭の合唱

また“今日の授業を通して、自分の考えをもつこともできました。それを発表することもできました。ブレインストーミングで友だちの意見をちゃんと参考にできてよかったです。”と記述している。【資料 18】このことは友だちの考えを参考にし、自分の考えをもつことができている記述である。

【資料18】 生徒の感想

今日の授業を通して、自分の考え持つことと、それを発表することもできました。ブレインストーミングで、友だちの意見をちゃんと参考にできたのがよかったです。

四つ目は、様相観察からである。第3時に教師の体験したけがの事例についてブレインストーミングで分析したことを【p40 写真 19・20】生徒H・生徒Iは自分の考えを友だちに相談しながらカテゴリー化していた。【p40 写真 23・24】また、生徒Hと生徒Fは、他者の意見を参考にしたことを自分の考えとして発表することができていた。【p41 TC 写真 25】その際、生徒が発表した内容を一つずつ板書することで、【p43 深める→実感する段階までの板書】他者の意見を参考にすることができていた。

以上のことから、つかむ教材を生かし、教材に触れることで思考・判断させ、学習指導内容へとつないでいく教材を使用することと、それぞれ分類した発問をすることは、生徒にとってこれまで習得してきた知識や経験と、新しい「体育理論」の学習内容を照らし合わせたり、他者の意見を取り入れながら議論させ、議論したことを参考にし、自分の考えを再考させたりし、「体育理論」としての知識を習得させる上で有効な手立てであったと言える。

(3) 実感する段階

ねらい

「体育理論」としての知識を、より実感した、より納得した知識として自分のものとして価値付けさせる。また獲得した知識を実生活に生かそうとする態度を高めさせる。

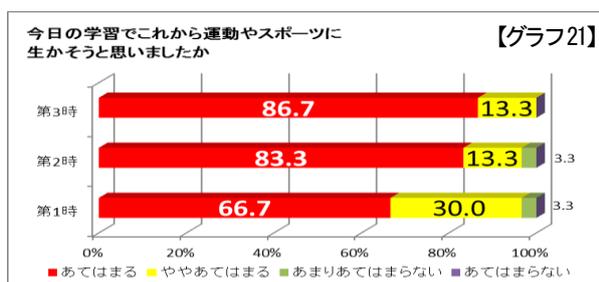
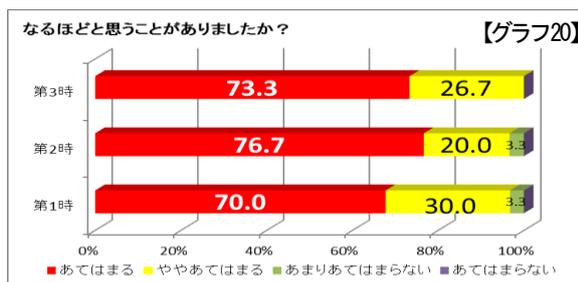
実感する段階におけるねらいに対する教材と発問の効果について

時間	広げる教材	発問	ねらいに対する効果
第1時	○214 うつ病の方の運動療法について	□214 分析する発問 「この運動、だれがやっているでしょう?」「この運動どんな目的でしょう?」	「体育理論」としての知識を、より実感した、より納得した知識として自分のものとして価値付けることができた。
	○214 大関魁皇引退会見	□214 分析する発問 「(1074)この数字は可だろ?」「魁皇の表情はどう?」	
		□215 評価する発問 「体への効果と心への効果は今後どのように生かすことができるでしょう?」	獲得した知識を実生活に生かそうとする態度を高めさせることができた。
第2時	○224 ザッケローニ監督の写真と談話	□224 分析する発問 「荷物を自分で運び、試合後の後片付けまでする。ボールを磨き大切にする。」誰が評価した言葉でしょう。」	獲得した知識を実生活に生かそうとする態度を高めさせることができた。
	○225 なでしこジャパン佐々木監督の世界に勝つための「11の心得」	□225 深化する発問 「ワールドカップで優勝したなでしこジャパンの佐々木監督が選手に伝えた『11の心得』ってなんだろう?」	
第3時	○234 体育及びスポーツに関する国際憲章	□235 評価する発問 「これから運動やスポーツを行う際に、自分ができそうなことはないだろうか?」	「体育理論」としての知識を、より実感した、より納得した知識として自分のものとして価値付けさせることができた。
	○235 教師の体験談		
		獲得した知識を実生活に生かそうとする態度を高めさせることができた。	

【表 12】

【表 12】の効果があった事柄について、段階のねらいに応じた手立てとして、つかむ・つなぐ教材に加えて、「体育理論」としての知識をより実感・納得させ、獲得した知識を実生活へと広げる教材と教材に応じた発問が有効であったからと考える。その根拠を以下に述べる。

一つ目は、授業後の自己評価からである。「なるほどと思うことがありましたか」「今日の学習でこれからの運動やスポーツに生かそうと思いましたか」という問いに対して、ほとんどの生徒が、“あて



はまる” “ややあてはまる” と回答している。【グラフ 20・21】これらは、「体育理論」の知識を自分のものとして価値付け、実生活に生かそうとしている結果である。生徒Hは、どちらの問いに対しても、1時間目と2時間目は“あまりあてはまらない”と回答していたが、第3時では“ややあてはまる”と回答した。このことは第1時、第2時では、「体育理論」としての知識を自分のものとして価値付けることができていなかったが、第3時で、これまで学習してきた授業を振り返りながら、本単元のまとめをしていく中で、自分のものとして価値付けることができ、実生活へ生かそうという態度につながったと考える。実際に生徒Hは“けがをしないようにちゃんと安全確認などをしなければいけないと思いました”【資料19】と自分のものとして価値付けられた記述をしている。

【資料19】 生徒Hの記述

けがをしないように、ちゃんと安全確認などを
 しっかりしなければいけないと思いました。

二つ目は、生徒の記述からである。第2時の生徒の感想から“やっぱりみんな技術面以外のことががんばっていて、一流の人たちも、自分たちと同じようなことをしていたので、技術面以外も、もっとがんばってしてみたいです。”【資料20】“やっぱり”という表現を用いながら、より実感した、より納得した知識として価値付けることができている。

【資料20】 価値付けられた記述

やっぱりみんな、技術面以外のことをがんばって、一流の人たちも、自分たちと同じようなことをしていたので、技術面以外も、もっとがんばってみたい。

また、第1時では、ワークシートに体や心への効果について生徒が生かそうなことを記述させた。生徒Fは、体への効果について“卓球をして動体視力がよくなりたい”，心への効果について“卓球をして「緊張を楽しむこと」に変えられるようになりたい。”と自分自身が現在行っている部活動と重ねながらより具体的に記述している。【資料21】また生徒Iは、体への効果について“フライングフットボールをして、ボールを遠くまで投げたい”，心への効果について“なにかをはじめて自信を持ちたい”と記述している。【資料21】これらのことは、保健体育の授業の運動領域や部活動に生かそうとする態度の高まりと言える。

【資料21】 実生活へ生かそうとする記述

体への効果	卓球をして 動体視力がよくなりたい。
心への効果	卓球をして 「緊張を楽しむこと」に変えられるようになりたい。
体への効果	フライングフットボールをして、ボールを遠くまで投げたい。
心への効果	なにかをはじめて自信を持ちたい。

さらに、第2時の生徒の感想では“ザッケローニ監督や佐々木監督の話をきいて、はげまし合ったり、フォローしあったりして、体育会や部活動で生かしていきたいと思いました。”【資料22】と記述している。このことは、「体育理論」の知識を自分のものとして価値付け、獲得したことを学校行事や部活動といった実生活に生かそうという二つのねらいが達成された記述である。

【資料22】 2つのねらいが達成されている記述

ザッケローニ監督や佐々木監督の話をきいてはげまし合ったり、フォローしあったりして、体育会や部活動で生かしていきたいと思いました。

三つ目は、生徒の様子と記述からである。第3時において「体育及びスポーツに関する国際憲章」と「日本のスポーツ基本法」の条文の内容とこれまで学習した「体育理論」の学習内容が一致する部分を紹介したことで、抽出した生徒を中心にパワーポイントを真剣に確認の様子が窺えた。【p41 写真 29】その後これから運動やスポーツを行う際に、自分にできそうなことを記述させた。生徒Fは“今日の授業をうけて、「計画的に運動する」ということが自分にかけているなあと思いました。これから運動する時に6つのこと心がけるようにしたいです。”と記述している。【p42 写真 30】このことは、自分に欠けていることを振り返り、獲得した知識を運動する際に生かそうという態度の高まりが読みとれる。また生徒Jは“今日の授業をうけて私も散歩してみようかなと思いました（笑）。最近、休みの日もあまり運動などをしていないので、ちょうどいいかなーと思ひまして…”【p42 写真 31】と記述している。生徒Jは、運動やスポーツを得意としていない生徒であるが、教師の体験談をもとに家庭生活の中で生かしてみようという態度につながったと考えられる。

以上のことから、つかむ・つなぐ教材に加えて、「体育理論」としての知識をより実感・納得させ、獲得した知識を実生活へと広げる教材を使用することと、それぞれ分類した発問をすることは、知識を獲得させ、獲得した知識を実生活に生かそうとする態度を高めさせる上で有効な手立てであったと言える。

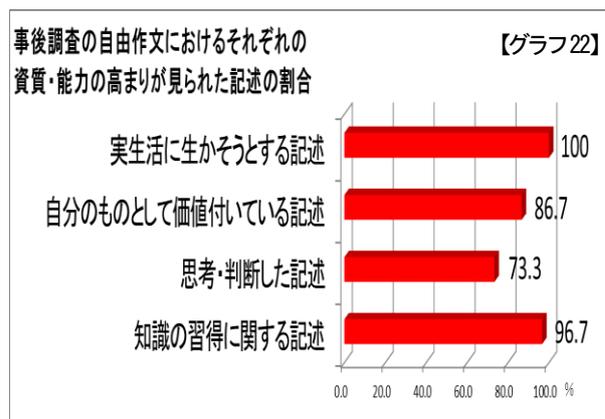
Ⅶ 全体考察

1 教材と発問の工夫について

知識を獲得させ、その知識を実生活に生かすとする生徒を育むために、段階のねらいに応じて、教材と発問を工夫したことは有効であった。その根拠はⅥ-5（第1学年考察）・10（第2学年考察）で述べてきたとおりである。

上記の考察に加えて、段階のねらいに応じた教材と発問を工夫したことで、目指す生徒の姿に掲げたそれぞれの資質や能力が高まっているかを考察する。

事後調査において、「これから運動やスポーツにどのようにかかわっていくか」という内容で、自由作文を書かせた。学級全体の記述内容を分析した結果、特に知識の習得に関する記述と、習得した「体育理論」の知識を自分のものとして価値付けている記述はグラフのとおりであった。【グラフ 22】このことは、ほとんどの生徒が学習内容について理解し、理解したことを自分自身の生活と結び付け、より実感した、より納得した理解へと価値付けることができていると言える。



その具体的な記述内容としては、次ページ【資料 23】のとおり、第2学年第3時の「安全な運動やスポーツの行い方」を学習することで、運動やスポーツを「する」だけでなく、「みる」「支える」視点でのかかわり方や自己管理の大切さを理解することができている。また知識として習得した「自己管理の大切さ」を、自分の経験と照らし合わせ、思考・判断することもできている。さらに後半部分

では、“今、考えると運動やスポーツなどは生活に深く関わっているなと思いました。”と記述し、【資料24】知識を獲得していく学習過程を通して、運動やスポーツが生活と深くかかわっているということを価値付けることができている。このことが、運動やスポーツに興味を抱き、今後もスポーツを楽しもうという態度の高まりにつながっている。【資料25】この記述は、まさに本研究が目指している、「体育理論」として習得した知識を生かして思考・判断し、自分のものとして価値付けられた知識を実生活へ生かそうとしているものと言える。

以上のことから、段階のねらいに応じた教材と発問を工夫することは有効であったと考える。

目指す資質や能力がそれぞれ記述されたある生徒の自由作文

【資料23】 知識を習得し、思考・判断できている記述

私は、運動やスポーツをするのはとても楽しくて、面白いです。
 しかし、私が思っているように、体がそこまでついてこず、けがなどを何回もして
 きました。それは、自己管理ができていなかったのが原因です。
 そんな私でも、見たリ、運動している人を支えるのが好きです。②

【資料24】 自分のものとして価値付けている記述

今、考えると、運動やスポーツなどは生活に深く関わっているなと思いました。

【資料25】 実生活に生かそうとしている記述

運動やスポーツに興味がわいてきました。②
 苦手ではないけれど、やってみるといろいろな体験があるので今後のスポーツ
 も楽しもうつもりです。②

さらに、研究を進めていく中で、生徒に学習内容を定着させるために、直接学習内容に結び付けていくものと、学習内容をより価値付けるものを教材として設定し、「つかむ」「つなぐ」「広げる」教材をそれぞれ関連させることが重要であると感じた。

直接学習内容に結び付けていく教材とは、「つかむ」教材と「つなぐ」教材で設定し、共通する題材（テーマ）でそれぞれの教材を関連させることである。例えば第1学年第3時においては「大縄跳び」を、また第2学年第3時においては「けが」を題材（テーマ）に、「つかむ」教材と「つなぐ」教材を関連させた。これにより、生徒は学習していくきっかけや、学習内容のイメージをつかみ、つかんだことを引き続き生かしながら、学習内容の定着につなげることができた。

学習内容をより価値付ける教材とは、「つかむ」・「つなぐ」教材に加えて、違った視点の題材（テーマ）で「広げる」教材を設定し、それぞれの教材を関連させることである。例えば第1学年第3時においては「つなぐ」・「つかむ」教材として、生徒が経験したことを題材に、「広げる」教材として、運動領域で経験していることを題材に、過去の経験と現在の経験という違う視点から、それぞれの教材を関連させた。第2学年第2時においては、「つなぐ」「つかむ」教材として、生徒が経験したことを題材に、「広げる」教材として、一流のスポーツ選手が経験しているものを題材にし、自分の経験と一流選手の経験という違う視点からそれぞれの教材を関連させた。これらのことは、「つかむ」・「つなぐ」教材で学習内容を習得し、「広げる」教材で別の視点から学習内容に迫ることで、生徒にとって学習内容をより価値付けることができ、学習内容の定着につなげることができた。

「体育理論」の授業を実施するにあたり、教材設定は身近なもので十分対応できると考える。運動やスポーツに関する日常報道されていること、運動領域でやっていること、学校行事、スポーツの祭典などに教師がアンテナを張り、情報を収集しておけば、教材はたくさんあふれている。それらを活用してタイムリーで身近な教材を設定することが、「体育理論」の授業づくりの第一歩であると考えられる。

2 獲得した知識を実生活に生かそうとする生徒について

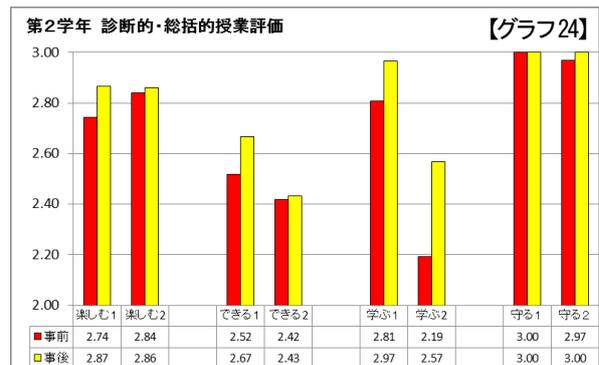
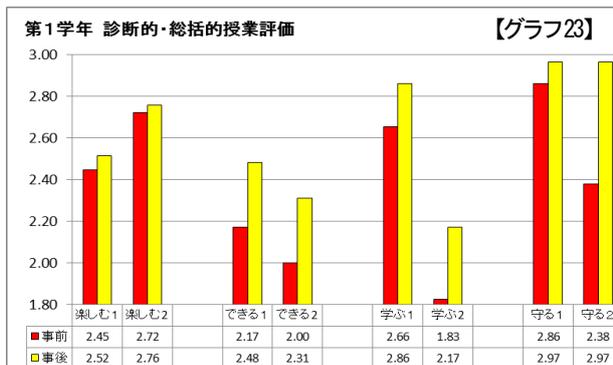
段階のねらいに応じた教材と発問を工夫することで、獲得した知識を実生活に生かそうとする生徒を育むことができたと考える。その根拠を以下に述べる。

一つ目は、診断的・総括的授業評価から考察する。

この授業評価は、本来運動領域を実施する際に調査するものであるが、体育の授業において、「体育理論」で学習したことで実生活に生かすことを確認できる質問項目があるので、検証するために手立ての一つとして活用した。【表 13】

項目	質問項目	回答の仕方
楽しむ1	体育ではみんなが楽しく勉強できます	3：はい 2：どちらでもない 1：いいえ
楽しむ2	体育をすると体がじょうぶになります	
できる1	体育では自分から進んで運動します	
できる2	体育が始まる前は、いつもはきっています	
学ぶ1	体育ではグループで作戦を立ててゲームや競争をします	
学ぶ2	体育のグループやチームで話し合うときは、自分から進んで意見を言います	
守る1	体育ではゲームや競争をするときは、ルールを守ります	
守る2	体育ではクラスやグループの約束事を守ります	

【表 13】 診断的・総括的授業評価 態度に関する質問項目



診断的授業評価と総括的授業評価を比較してみると、1年生・2年生ともに、すべての質問項目において数値が上昇している項目の詳細については以下のとおりである。【グラフ 23・24】

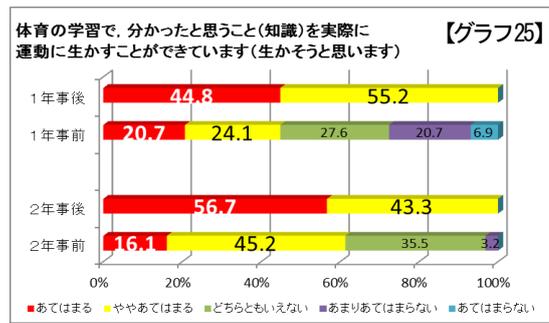
まず、1年生・2年生ともに「学ぶ2 体育のグループやチームで話し合うときは、自分から進んで意見を言います。」という項目では、事前と事後では大きく数値が上昇している。このことは、深める段階で、「体育理論」の知識を習得するために、他者の意見を取り入れながら議論させ、議論したことを参考にし、自分の考えを再考させる手立てとして、教材と発問を工夫したことが、一つの要因であると考えられる。

また、1年生、2年生ともに、「守る2 体育ではクラスやグループの約束事を守ります。」という項目では、93.3%の生徒が総括的授業評価では“はい”と回答している。このことは、実感する段階で、1年生では「運動やスポーツの学び方」2年生では「運動やスポーツが社会性に及ぼす影響」を学習することで十分に理解できていることが一つの要因であると考えられる。

これらのことは、運動領域を学習することや日頃の学校生活における人間関係など様々な要因が考えられるが、ここにあげた質問項目においては、「体育理論」で学習したことが大きく影響していると考えられる。

二つ目に事前調査と事後調査のアンケート結果から考察する。事前調査では「体育の学習で、分かったと思うこと(知識)を実際に運動に生かすことができているか」、事後調査では「体育の学習で、

分かったと思うこと（知識）を実際に運動に生かそうと思います」【グラフ 25】という問いに対して、1年生・2年生ともにすべての生徒が“あてはまる”“ややあてはまる”と回答している。「する」「みる」「支える」の視点でそれぞれの学年の内容を学習した知識が、自分のものとして価値付けられ、獲得した知識を実生活に生かそうという結果であると言える。



三つ目に事前と事後の自由作文から考察する。以下に抽出した生徒が記述した作文の内容について【表 14-1年・2年】にまとめた。

	事前調査	事後調査
	「これまで運動やスポーツにどのようにかかわってきたか文章にまとめてみましょう。」	「これから運動やスポーツにどのようにかかわっていくか文章にまとめてみましょう。」
生徒A	週に1回ダンスの練習をしています。リズムにのっておどるのはとても楽しいです。1年に1回結構広いところで全クラスの生徒がそこでダンスを披露します。将来はダンサーにはならないけど、ダンスが踊れる歳までは踊ってみたいです。後部活です。あまり足が速くありませんが、みんなと部活をするのはとても楽しいです。	これまでの学習で知らなかった健康増進、体力向上や相手との競争感情の表現など、スポーツにはたくさんの楽しみがあるということが分かって自分がこれからしていくスポーツはどんな分類に入るのかなとかどんなおもしろさがあるのかなどそういう事を考えてやっていきたいです。あと「する」「見る」「支える」など自分は「する」しかやってこなかったもので、家で観戦したり、スポーツをやっている人を支えたりしてみたいと思います。今回の学習は「体育理論」で今までやった事のない授業で最初は緊張していたけど、4時間くらい学習して大切な事だなと思いました。ありがとうございました。
生徒B	部活を始めたことでスポーツに関わってきた。	「体育理論」では知らないことがいろいろ分かり部活に使えるものもありとても役に立ちそうです。「体育理論」で習ったことを僕は部活だけではなく他の運動、スポーツに生かしていきたいと思います。特に「役立たそう」と思ったのは「作戦」です。剣道では「負けるな」「引き分けをねえ」などしかないのもっと深く「〇〇の場所をねえ」などそのような作戦を立てようと思っています。
生徒C	ありません。	この学習を通して、保体などに生かしたと思います。部活をやめて、体力があまりないけど、ほかのことで体力をつけようと思います。
生徒D	とくになし	僕は体育理論の授業を受けて2時間しかできませんでしたがいろいろなことを学べました。特に最初の「スポーツをする必要性、多様な楽しみ」の授業では今までこんなこと考えたこともなかったなあと思いました。これからスポーツをするときには、「体育理論」で習ったことを生かしてスポーツをしてみたいです。
生徒E	ありません。	3時間体育理論の学習をして、運動やスポーツにはいろいろな楽しみ方や関わり方がいろいろあるんだなとよく分かりました。3時間学習したことをこれから体育の時間とかに生かしていきたいです。

【表 14-1年】

	事前調査	事後調査
生徒F	小学校4年生くらいから、クラブ活動というものができるようになって、そのときがスポーツとの関わりの初めだったと思います。「屋内運動クラブ」に入って、私は	もし、イライラしている時などに運動をすることによってリラックスできるので、試してみようと思います。運動やスポーツは心身ともに効果があるのでいろいろな場面で生かしていけそうです。部活動をしていて、人間関係を築くことは難しいことだけ

	バスケットボールにはまってスポーツが好きになりました。その後中学生になって、バスケットではないのですが卓球部に入部しました。部活に入ることによって運動量が増えたと思います。	ども、大切なことだと感じます。適切な人間関係を築きましたルール等の工夫もして、少しずつ社会性を身につけていけたらいいなと思いました。また部活動や運動する時に、私は準備運動やストレッチをせず運動をしてしまうことがあるので気をつけていきたいです。
生徒G	中学校に入るまでは、体育でしたが変わってないけど、中学校に入って部活を始めたから、今は部活で運動と関わっています。	僕も火曜日に習った軽く運動をしてリラックスするというのを試してみたいと思いました。でも運動をする時はいつでも危険と隣り合わせなので、木曜日に学習した、安全の場面がものすごく役に立つと思いました。なので、これからはスポーツをする時は、まず準備運動をしてからその次のほかの安全面に気をつけていきたいと思いました。体育理論は本当に大切なものなんだな～と思いました。
生徒H	あまり関わっていません。	体育の授業などで、ルール等の工夫などして、できることをがんばる
生徒I	関わっていない。	するだけでなく友だちのを見たり、友だちを支えていこうかなと思いました。今度体育の授業などでは、自信を持ってがんばってやってみようと思いました。
生徒J	ほとんど関わってないです。たまーにいいこと「サッカー」や「キャッチボール」などを簡単に（あまりルールは作らずに）やってみたりはしますが…それを『スポーツ』と言っていいのかわ…部活も美術部なので運動はしてないので…あとスポーツ系のテレビとかもみないですし…	これからは、もっと運動やスポーツをやってみよう!と思いました。例えば落ち着かない時に、少し体を動かしてみるとか、イライラしている時にも少し体を動かしてみるとか…いろいろと運動してみようかなと思いました。それでもし体力が上がればもっと嬉しいです。私はあまり体力がないもので…だからといって特別運動やスポーツをやろうという気持ちもなかなかと…。が!!これからはがんばってみようと思います

【表 14-2年】

それぞれ抽出した生徒の記述は、「部活動」「保健体育の授業」「家庭でスポーツをする」「家庭で『見る』」などの項目で、実生活に生かそうとする記述をすることができていた。またその他の生徒の記述には「ボランティアなどで『支える』」「健康増進を意識して運動する」「体育会に生かす」などの項目もあげられており、すべての生徒が生かそうとする記述をすることができていた。よって1年生・2年生ともに実生活に生かそうとする態度の高まりをみることができたと言える。

最後に学校生活で生徒が記入している生活ノートからである。検証授業終了後3週間後の生活ノートに、運動やスポーツに関して家庭とあまりかかわりのない生徒Aは、“最近ではバレーボール(ワールドカップ)があるので、毎日、テレビを通して応援しています。今は日本は1勝2敗なので頑張りたいです！

【資料25】 生徒Aの生活ノート	
今日の反省	最近ではバレーボールがあるので、毎日、テレビを通して応援しています。今は日本は1勝2敗なので頑張りたいです！
	福田先生に「体育理論」を習ってから、スポーツを見るのが前よりももっと面白くなりました。

福田先生に「体育理論」を習ってから、スポーツを見るのが前よりももっと面白くなりました。”【生徒Aの生活ノート】と記述して担任に提出している。このことはまさに獲得した知識を「みる」というかかわり方で、実生活に生かそうとしている内容である。「体育理論」の授業が終了した直後だけでなく、時が経っても獲得した知識を実生活に生かそうとしている姿は研究の成果と言える。

以上のことから、獲得した知識を実生活に生かそうとする生徒を育むことができたと言える。

Ⅷ 研究のまとめ

1 成果

- (1) 段階のねらいを設定し、ねらいに応じた教材と発問を工夫することで、知識を獲得させ、獲得した知識を実生活に生かそうとする生徒を育てることができた。
- (2) 教材と発問を整理することは、それぞれの教材を関連させながら明確に提示することができることと、その教材の良さを引き出しながら発問することができ、学習指導内容の定着につなげることができることがわかった。

2 課題

- (1) 運動やスポーツに関する情報収集と生徒の実態をしっかりと把握し、それぞれの教材を関連させながら精選していく必要がある。
- (2) 教材に応じた発問を設定するにあたっては、様々な場面を想定し、生徒の状況に対応できる細かな補助発問を準備・工夫する必要がある。

引用・参考文献

- | | | | |
|--|-----------------------|-------|------|
| 「小学校学習指導要領解説 体育編」 | | 文部科学省 | 2008 |
| 「中学校学習指導要領解説 保健体育編」 | | 文部科学省 | 2009 |
| 「高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編」 | | 文部科学省 | 2009 |
| 「楽しい体育理論の授業をつくろう」 | 佐藤豊・友添秀則 編著 | 大修館書店 | 2011 |
| 「教室でする体育－体育理論の授業づくり－」 | 出原泰明 編 | 創文企画 | 2000 |
| 「体育科教育 2008. 6」 | 品田 龍吉 著 | 大修館書店 | 2008 |
| 「新版 体育科教育学入門」 | 高橋健夫・岡出美則・友添秀則・岩田靖 編著 | 大修館書店 | 2010 |
| 「教師のための発問の作法」 | 野口芳宏 著 | 学陽書房 | 2011 |
| 「誰でも成功する発問のしかた」 | 加藤辰雄 著 | 学陽書房 | 2008 |
| 「体育科発問の定石化」 | 根本正雄 著 | 明治図書 | 1987 |
| 「体育科発問づくりの上達法」 | 森實伸一 著 | 明治図書 | 1989 |
| 「学ぶこと教えること」 | 鹿毛雅治・奈須正裕 編著 | 金子書房 | 2010 |
| 「教養としての体育原理」 | 友添秀則 岡出美則 編 | 大修館書店 | 2005 |
| 「体育授業を観察評価する
授業改善のためのオーセンティック・アセスメント」 | 高橋健夫編著 | 明和出版 | 2003 |